

流域の人々と歩む月刊誌

# くまがわ春秋

2016

8

第5号

特集 球磨川大好き! 「源流水リレー 20周年」



八代不知火干潟の「アナジャコ捕り」© つる様子

火の国、水の国、  
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



織月酒造株式会社  
宇梶剛士



世界的な品評会で  
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles  
Wine & Spirits  
Competition 2015



飲酒は20歳を過ぎた後から、飲酒運転は法律で禁止されています。妊婦中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響を及ぼすおそれがあります。

織月酒造株式会社  
<http://www.sengetsu.co.jp/>  
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

雑誌 81779-08



4910817790864  
00500

月刊 くまがわ春秋 第5号 2016年8月9日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社  
〒868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田 675-3

TEL・FAX 0966-22-7601

<http://www.hiroyoshi.co.jp/>

[info@hiroyoshi.co.jp](mailto:info@hiroyoshi.co.jp)

定価 540円

本体 500円

## カラーページ

特集「球磨川大好き！」源流水リレーの20年／5  
 ふるさと遊び図鑑④松舟博満／13  
 シリーズ里に生きる①「森下仁一朗さん」／14  
 里山の恵み④「シソの葉」／森屋浩美／16  
 はいくのなかで描いた絵⑤「吉井保育園」／17  
 球磨川の駅⑤「瀬戸石駅」松本晋一／18  
 昭和の写真館⑤「人吉の仲居さん」／24

## 第5号目次

くまがわ狂句 村上鬼拳／3  
 ひろしの「げっかん・ぎひょう」／4  
 「泣くなピート・ローズ」岐部明廣／26  
 定吉が行く⑤「線香屋の定吉」誕生／29  
 「食べる」ことは、「生きること」…浦川春加／32  
 北御門二郎訳「トルストイ短編集」発刊／34  
 「壺のアリョーシャ（上）」レフ・トルストイ／35  
 記憶の落ち穂⑤「五日前の高田素次」／39  
 上杉芳野の「あがつ段」④「和の熊本宝塚」／40  
 筏師（編集部）／42  
 「柳人があじわう漱石俳句⑤」いわさき楊子／45  
 「65年ぶりの再会」黒羽幸司／46



鶴鶴短歌会「七月詠草」／49  
 『明治熊本地震』と長岡半太郎①木崎康弘／50  
 話題「佐々木脩さんの経営指南書」／56  
 地元本①「研究者の本懐」白城松男／57  
 本当にあった話「天井裏の生活者③」久馬凌／59  
 小山勝清生誕二〇〇年特集④／61  
 歌壇「いもご短歌会」／65  
 不知火海の自然・生活②「アナジャコ」つる詳子／66  
 「田島三間『明日の春』論」永田満徳／70  
 方言を味わう⑤前田一洋／72  
 人吉藩の地震「宝永四年の大地震②」尾方保之／76  
 詩「被災地は3か月」村上ますえ／79  
 「郡築干拓の農業⑤」磯田毅／80  
 東京オリンピック⑤「DMOやつしろ」荻田吉富／82  
 「くまがわの神さん仏さん③」宮原信晃／84  
 「字図で見る球磨の地名⑤」上村重次／87  
 伏流水「土用の丑の日に何がおきたか」上村雄一／90  
 「外来語から学ぶ英単語⑤」藤原宏／91  
 マイ・文庫本「遺跡発掘師は笑わない」／92  
 〈流域情報〉／93

## 今月の詩 ⑤

### 人吉球磨児童生徒文詩集「やまざり」から

第34号（2006年3月発行）選・作文の会

## 成功したダンス

タンタカタンタカタン  
 音楽が鳴ってみんな踊りだした  
 観客の前で僕はおどった  
 僕はおどりながらお母さんをさがした  
 お母さんは写真をとっていた  
 僕とカメラごしの目が合ったような気がした  
 ボックスとピボットターンが不安だったけれど  
 順調にくまこい六調子をおどり続けた  
 僕はくまこい六調子を全部成功させた  
 うれしかった

今月の一言『文読む月日』（レフ・トルストイ編著）より  
 自分を研究しようと思ったら——人々とその行為とを観察せよ。人々を研究しようと思ったら——自分の心を覗け。  
 （シラー）

万江小四年 坂田謙吾

家に帰ってお母さんが  
 「よくがんばったね。」  
 と言ってくれた  
 また、うれしかった

【評】たくさんの人の前で踊ったダンス。うまくいくかと不安の中、緊張しながらもお母さんをさがす謙吾さん。「カメラ越しに目が合った」という表現がおもしろい。最後にはめられてまた喜びを実感できたようである。



中原小2年 宮永恵玲奈

表紙

八代不知火干潟の「アナジャコ捕り」



（撮影 つる詳子／八代市）

## 生前退位

7月13日、NHKは19時のニュースで、天皇が退位し皇太子に地位を譲る意向である、その意向は会見で天皇みずからが示す予定である、生前退位にむけて法整備を準備中であると報じた。翌14日、すべての新聞も同じ趣旨の記事を一面トップで載せた。NHKの報道直後、宮内庁は報道をすべて否定したけれども、宮内庁の見解を信じている者はいなかった。天皇生前退位の報道である。誤報が許されるはずがなく、NHKという報道機関の特殊性とすべてのマスコミの二斉報道は宮内庁の否定を意味のないものにした。

82歳という年齢を考えれば、天皇の生前退位の意向は尊重されてしかるべきである。これに対して政府関係者は、生前退位は憲法上不可能であると考えているとする報道があった。「政府関係者」とは、具体的に、誰のことであり、憲法のどの規定が生前退位を不可能にしているのかについては明確に書かれてなかった。現在、宮内庁を除き、政府は公式見解をまったく示していない。しかし、「政府関係者」、「宮内庁関係者」といった匿名の情報源を紹介するかたちをとりながら、マスコミは生前退位論の記事を発表しつづけている。「情報源の秘匿」という言葉があるけれども、匿名情報を基礎に情報が流されつづけてよいであろうか。そういう記事ばかりになったら、大本営発表の鵜呑みに近くなるのではないか。それにしても天皇は高齢である。したがって政府（宮内庁を含む）内部で皇室典範の改定に向けての準備が進められているのはまちがいない。しかし、どのような方向でその作業が進められているのかは不明である。問題の性格上、極秘作業が望ましいとの意見もみられるけれども、政府が突然に一挙に改定案を提示した場合、国会でそれを可決される保証はない。自公政権は議会の圧倒的勢力を基礎にしているけれども異論が百出する恐れがある。たとえば天皇が崩御したときには、皇太子が天皇になるが、そのときには現在の状況では皇太子は不在になる。現行の皇室典範は、天皇の男性

長子が皇太子になると定めているにとどまり天皇の弟は皇太子にならない。男性長子尊重の気風は根強いと予想される。天皇家は男性が少ないという事情もどうみるかという問題もある。以前、女性宮家の創設が話題になったとき、保守派の一部は強固にこれに反対した。

アメリカの大統領選挙の民主党候補に女性のヒラリー・クリントン氏が選ばれ、東京都の知事に同じく女性の小池百合子氏が選出された。この両者を皇室典範の改定問題にむすびつけるつもりはまったくない。しかし世の中に男性と女性で構成されていること、その女性を軽視する社会に発展性がないことは確かである。高齢になればなるほどいろいろな側面で能力がおちはじめ、社会の半数を占める女性のなかにすぐれた人材がいる、少なくとも、「匿名情報」によらずとも、これだけははつきりしている。

(編集部)

## くまがわ狂句

村上鬼拳

ご用心 単身が戻ろつてせん  
ひと苦勞 日陰の花のままがええ  
素通し 今ごろ焦りよるどなア  
話好き 一人旅させてはくれん  
銭湯で 雑学博士もろつたつ



【むらかみ・きけん／人吉市】

## 投稿をお待ちしております

### ①フोट俳句

写真1枚と俳句2句、20字程度の解説を封書に入れて送ってください。テーマは自由で、締め切りは8月末日。住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記のうえ、巻末の編集部宛にお送りください。メール、本誌のFacebookページ (<https://www.facebook.com/KumagawaShunju/>) への投稿でも結構です。

### ②読者の声

最近の世相に関する考えや本誌への提言など。200字まで。封書・ファックス・メールで巻末の編集部宛にどうぞ。

ひろしの…

7月23日（土）

▽相良藩子ども塾「日本遺産」子どもたちが学ぶストーリー」

▽第15回 夜の“人吉ふれあい百円商店街”

7月24日（日）

▽人吉球磨児童による童話発表会（人吉カルチャーパレス）

▽第7回人吉ラットサル大会（人吉スポーツパレス）

7月26日（火）

▽第11回八代市童話発表会（やつしろハーモニホール）

7月30日（土）土用の丑

▽第27回リバーフェスティバル「サガラツパ祭り」(相良村)

▽日奈久温泉「丑の湯祭り」(日奈久温泉街一帯)

▽第20回球磨川源流水リレー（31日）

7月31日（日）

▽急流と鍾乳洞の里まつり（球磨村球泉洞一帯）

▽弦楽アンサンブル 楓 「第5回定期演奏会」

8月2日（火）

▽青井さん夏越し祭（青井阿蘇神社）

8月4日（木）

▽ひとよし・くま市民劇場創立50周年記念公演「月光の夏」

8月6日(土)

▽永国寺「ゆうれい祭り」(人吉市土手町)

## 特集

「球磨川大好き！」  
源流水リレーの20年

川に感謝し、つなぎ続ける



八代市水島町の河口でゴールを祝う参加者（2016.7.31）



シンポジウムの会場となった八代厚生会館

1996（平成8年）年6月9日、八

代厚生会館で開催された球磨川水系ネット

ワークの発足式

から始まった「球

磨川源流水り

レ」は今年20

年目を迎えた。

「球磨川大好」

き！  
山から海へ

心をつなぐふるさ

との川」と題し

たシンポジウムの

プレイベントとしてスタートした源流水リレーは、球磨郡水上村の球磨川源流から八代市水島町の河口までの約120キロの道のりを、竹筒に入れた源流の水を、徒歩・マラソン・自転車・カヌーなどで、人から人へリレーして運ぶ。

7月30日と31日に行われた今年のリレーの様子をレポートするとともに、初代実行委員長である高場英二さんの「球磨川が尺鮎を育み、球磨川下りやラフティングなど他所にない魅力、そして何よりも不知火海へそそぎ、海の宝を支える大河である」という言葉通り、川に感謝し、つなぎ続けた20年にわたるこのリレーに関わった人達の今の思いを聞いた。



—南米発のリオ五輪。大会スローガン「新しい世界へ」—

「この平和の祭典は8月5日開幕、21 日までの 17 日間。ゴルフと7人制ラグビーが新たに追加され、28 競技 306 種目で競われる。ブラジルは冬、選手の苦勞、大変な戦いが繰り広げられている。」

# 球磨川～大好き～!



ゴールの水島で源流水を海に注ぐ



自転車でゴールする参加者



球磨川～大好き～!



球泉洞下で泳ぐ子どもたち



青井阿蘇神社

第2日目  
スタート

第1日目  
ゴール



中河原公園

# 走った・潜いだ そして歩いた 120 km

2016年7月30日～31日



球磨川水源

源流登山口



第1日目  
スタート

市房ダム

市房  
キャンプ場

市房神社

カヤック初体験の子どもたち



# 20周年へのメッセージ

## 高場英二さん



源流水をリレーでつなぐ運動のため人員の配置に苦労した。1000人近くの人がリレーに参加したときなど簡単にスケジュール表を作成できなかった。参加者が多いと事故発生の危険もでてくるので、そのことをもつと心配してきた。現在は、以前に較べると、細かいリレー方式になっていないけれども、安全面から考えると改善されてきた。

川辺川ダムについて、反対派のみなさんからはダム賛成派であると批判を受け、賛成派のみなさんからは反対派であると批判をいただってきた。しかし、「球磨川を大切にしたい」、「球磨川は宝である」という考えを定着させることができ満足している。

## 平野清満さん



源流まで行くことは、簡単ではないけれども、到着した瞬間のうれしさはなににも代えられない。源流に辿りつくこと自体、価値ある行動である。リレーなのでタスキを渡す義務がある。タスキをわたしたときの達成感もわすれがたい。最近、参加者が減少気味でさびしい面もあるけれども、やりがいのある運動である。

以前は、リレー中に自転車・カヤックを参加者が楽しむという側面が強かったけれども、子どもの参加者の増加にともない、子どもを事故から守る義務もできて純粋にリレーを楽しめなくなっただけで、子ど

があつさりと壊され殺されていった時代。

もたちの明るい笑顔がそれを帳消ししてくれる。「参加者が楽しむ」から「子どもたちに自然に接してもらう」に運動の性格は変化してきたのではなからうか。

## 佐藤亮一さん

八代の大島に叔母がいて、夏はそこで過ごしていました。大潮の日は澄んだ潮が満ち、サヨリ、黒鯛、ハゼ達が群れ泳ぐ。貝を拾いエビを掬って叔母がおかずにしてました。本当に幸せな時代でした。

やがて宇土の化学工場から流れ出た黒い帯状の排水が、その美しい海を穢し始めました。あの広い海が見渡す限りの黒い排水で覆い尽くされたのを見たとき、胸がふさがり

気を失ってしまいました。

隣の海、水俣ではもつともつと非道なことが起きていた。

胸ときめかす美しいもの、皆に幸せをもたらす生き物達

源流水リレーが英二さんらの尽力で日の目を見たとき、胸が熱くなつて、人生で初めて詩が浮かんできました。

ああ、何としてもこの思い、皆に届け！

海は雲を生み

雲は山に雨を降らせ森を育て

森は清冽な流れと野生を生み

流れは川となつて魚たちや作物を育て人を生かし

川は山の力を海に運び

豊かな貝たちや魚たちや鳥たちを生む

私たちは

このめぐりめぐる生の営みを

美しく輝かせたいと心から願う。

山も・川も・海も・そして人も……美しくあれ！

## 山田将也・ひろみさん夫妻

二人だけでなく、娘たち3人も一緒に参加した。いわば家族参加だ。しかも初参加。新しい発見の連続で、私たち自身がリレーを楽しんだ。娘たちもはじめて球磨川で泳ぎ



ボートに乗った。こういう経験ができるとは予想しなかった。上流から下流に向かうにしたがつて濁っていく様子も分かった。親の私たちばかり楽しんだようで、子どもたちに申し訳ない。それだけスタッフのみなさんに配慮していただいたのだろう。感謝の一言。

## 金尾健さん

球磨川源流水リレーに参加したのは、もう20年近く前のことです。昨年、久しぶりに球磨川・川辺川を下って当時を思い出しました。源流水リレーは、流域の人々が上下流

という地域を超えて、そして立場を超えて参加する、素晴らしい催しだと思います。このことが将来にわたって思いを受け継がれていくことを期待しています。

## 山口貴美代さん

20年で、いったい、どれくらいの人々の、人の手から手へとつながれ球磨川・川辺川源流水は不知火海へ、お返しできたのかな…。

ワクワクしながら坂本にて球磨川源流水で乾杯したのがなつかしいです。いつか、不知火海にそがれる川で、そなりレー仲間として参加できたらと夢見たものです…。

数年間、地元の佐敷川・湯浦川、「水俣芦北七浦会」で、環不知火海源流水リレーとして参加できたことは、宝物のとなりました！ありがとうございます。

最近、なかなか参加できません。それでも20周年のうれしいニュースに、地道に続けて下さっている人たちに感謝しています。

多くの人たちに、それぞれ何か生まれたのでは…

## 藤本初美さん

源流水リレーに初めて参加した。役所も警察も一切からまない完全な有志によるイベントだった。小学4年生になる二人の子供達と参加した。

源流までの山道をひいひい言いながら登っていくと、湧水がちよろちよろと湧き出している。この水を竹筒にいれて流域に住んでいる人たちに運んでもらうのだ。動力を使わずに、カヌー、自転車、ランのバトンタッチで河口まで1泊2日で下っていく。

参加の声をかけてもらった時に、私の知り合いは一人だった。運んでいる間にそこに住む色んな人たちと知り合った。山羊を飼っている人、福岡からカヌー持参で参加する人、そしてサポーターする人たち。

知り合う人が増えるように河川も広くなっていく。台風の影響で向かい風が強いなかゲラゲラ笑いながら自転車でゴールした。ゴールにも沢山の人が待っていた。

あの日、子供たちはふらふらしながらも持参した自転車で坂道を下りていった。この思い出を彼らは覚えていてくれるだろうか。誰からも誉められなくても真剣に取り組む大

人達がいることを覚えていてくれるだろうか。そして、お前たちにもそんな大人になって欲しいと思っているんだ。

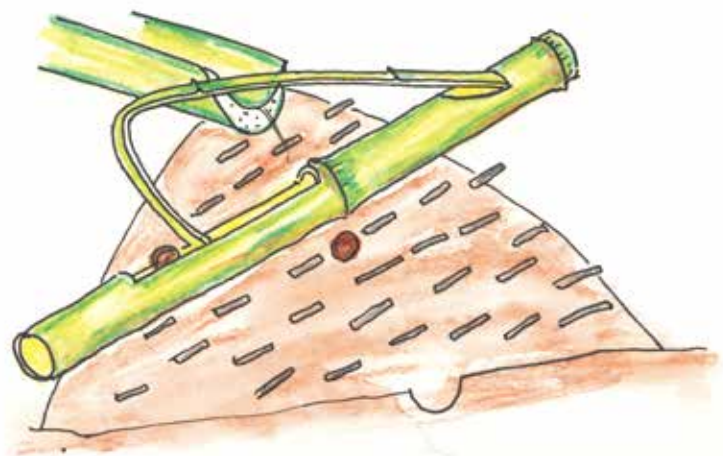
## 白井清美さん

毎回、行程のどこかには参加している。一番多いのは金剛橋からゴール水島までだ。思い出は尽きない。初回でガールスカウトの制服を着て水島まで走った三女は27歳になった。中川原で一緒にキャンプし、一緒に水を運んだことのある愛犬は昨年亡くなった。時があつという間に過ぎていったような気がする。

いつの頃からか老眼鏡をかけないと文字が見づらくなり、孫も生まれ、「ばあちゃん」と呼ばれる自分になっている。私とほぼ同世代の荒瀬ダムは撤去され、球磨川には清流が戻りつつある。20年後、ひ孫と一緒に源流水リレーに参



# 茶の実の戦争



茶の実は、まんまるかった何んにでん使いぎやなつた。ゴミジュウん玉んしたり、「パチンコ」ちゅうて中ば茶の実ん転げて行くぐたつ太かイモガラば、茶の実ん転がつぐりやに傾けて、その下に泥ば斜めんなつて盛つて手で叩き絞めて、イモガラん中ば転ばきやて当れば一ちよずつ茶の実ば貫らわれた。

茶の実の中きやひやつていく太さん竹ば、元ん方に節ば残けえて、まあ一ちよ節ば付けてそん先の節の手前でうち切つて、元んふしから一寸ぐりやん所つばノコで半分ぐりや引いて、先ん方から斜めん削つて、次ん節の直ぐ先ば半分ノコで引いて、そっから五寸先も同じこてして、そん

間は削つて取つてしもうてから、うち割つた竹ば削つた所ん中ん削つて元の斜めんした所んに差込くうで、先ん方ば火であぶつて曲げて、そっから四寸長こうしてうち切つて、弾きバネんして、止めよま一寸ばかりバネば引いて、そん先ん茶の実ば入れて、バネば節ん所んまで引いて、手ばうつちよけば茶の実ば弾いてつうでいきおつたで、こつば鉄砲んして戦争ばしおつた。

茶の実じやつで当つたつちやええと痛とうはなかつた。「はじき鉄砲」は、すずめ追いにも使いおつたでこん時にや茶の実のもつたい無かつたで石ば使いおつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

加できるように頑張らんバン!!

## 白柿洋征さん

「球磨川だい好き」のスローガンをかけた球磨川水系ネットワークによる「球磨川元年」宣言から20年、おめでとございます。旧深田村のプロジェクトAチームの参加は1998年からの数年でしたが、地域住民の皆さん、子供達の協力を得てアピールできたのが懐かしく思われます。私は日常の生活において、地球表面上の環境維持だけでなく、有限の地下資源を無駄に使わないことから始めてセツトで問題を提起し、考えていくべきだと思っております。

## 山崎高子さん

「人吉まで自転車で行き、山方面を上りたい」という夫の希望を叶えるべく、球磨川源流水リレーに宮崎県から参加してきました。夫は待ち時間に



市房山キャンプ場から自転車で行ける4合目まで行き、その後はキャンプ場から人吉まで、自転車隊の皆さんとのんびりライドを楽しませてもらったようです。急な参加にもかかわらず、親切にしてくださる夫婦ともども感謝しております。

## 松田浩典さん



球磨川の上流から下流まで、新旧たくさんの方々に参加していただいた第20回球磨川源流水リレーは無事ゴールしました。参加者の皆さん、ありがとうございました。

た水島のご家族を通して、あらためて球磨川の豊かさを強く感じる事ができました。今後ふるさとを大切に思う心を次の世代へリレーしていきたいと思ひます。

# “三惚れ、で地元の名物寿司に



道の駅で商品を陳列する仁一郎さん



道の駅「さかもと」。広域交流センターさかもと館も併設されている



坂本駅で出張販売をする森下さん親子。焼きサバ寿司と共に「コノシロ寿司」も販売している

森下鮮魚店 ☎ 0965 (45) 2321  
〒869-6111 八代市坂本町葉木藤本 4353-1

8年ほど前に商品化した「焼きサバ寿司」は人気があり、リピーターがたびたび買い求める一品。一緒に販売している「コノシロ寿司」と共に売り切れることも少なくない。

高校卒業後、進路に悩んだ仁一郎さんは商売がしたいという思いがあり、魚屋になることを決意。球磨郡多良木町の鮮魚店で住み込みの修業をしたあと、地元の旧坂本村で開業した。

人口が多かった時代は店頭販売で成り立っていたが、現在は地域の病院への鮮魚の配達のほか、手作り寿司の製造販売を手がけている。

試行錯誤のすえ完成させた「焼きサバ寿司」は芳醇なサバの油のうまみを引き出し後味はさわやか。ここ坂本駅での出張販売のほか、道の駅「さかもと」にも商品を置いている。

「地域に惚れ、仕事に惚れ、相棒に惚れ」る「三惚れ」の精神で仕事を続けてきた仁一郎さん。息子の普成さん（38）も最近、仕事を手伝い始めた。名物寿司と三惚れの精神はこうして二代目に受け継がれていくのだろう。



JR 肥薩線坂本駅で、SL人吉の停車時間に出張販売をする森下さん（右）



人気の「焼きサバ寿司」（500 円）

全て手作りでの製造工程（下）



SL人吉の上り列車が停車する坂本駅ホームで人の群がる光景がある。地元の名物と言われる寿司を売る森下鮮魚店の販売ブースだ。

八代市坂本町「森下鮮魚店」 森下仁一郎さん（70歳）

## 「焼きサバ寿司」の製造・販売

## シリーズ ほいくのなかで描いた絵⑥

### 吉井保育園

(球磨郡あさぎり町)



新しい園舎ができ、1年と5ヶ月が過ぎました。毎日プール遊びを満喫している子どもたちです。

私たちは、子どもたちの豊かな情操を育むため、毎日の保育の中で様々な事を体験できるように、環境設定を心がけています。これからも子ども一人ひとりの心と体がすくすく育つよう、保護者とともに見守っていきます。



絵を描いた人  
大平りあんさん (6歳、あさぎり町)



社会福祉法人 吉井保育園  
〒868-0408 球磨郡あさぎり町免田東 1941-1  
定員: 50名 ☎ 0966-45-4537  
開園時間: 午前7時00分～午後7時00分  
(平日・土曜日、延長保育含む)

### むつみ保育園

(球磨郡多良木町)

先月号「むつみ保育園」の絵の天地左右が違っていたので、再掲いたします。

社会福祉法人 むつみ保育園  
球磨郡多良木町多良木 1581-2  
☎ 0966-42-5096



絵を描いた人  
白川芽吹くん (5歳、多良木町)

## 里山の恵みをいただく④

### シソの葉



栄養豊富な  
シソの葉を活用しよう!

森屋 浩美

シソの葉は青と赤の2種類があり、夏頃から秋までが美味しい時期と言われています。

赤色のシソは梅干しの色付けにつかったり、ジュースに使われます。青シソは香りが良く、刺身などの薬味によく使われています。殺菌作用もあり、栄養も豊富です。

#### シソ入りおにぎり

- ①. シソをさっと洗って千切りにする
- ②. ご飯に千切りのシソ・ごまを混ぜる
- ③. 塩を手につけてご飯をにぎる

#### シソのふりかけ

乾燥して粉々になったシソとゴマ塩を混ぜるとふりかけのできあがり。

#### その他

シソの葉をてんぷらにしたり、刻んで薬味としてつかったりいろいろな楽しみます。

#### シソの栄養素

ビタミンB1・B2・B6、βカロテン、ビタミンC、ビタミンE、ビタミンK、カルシウム、鉄、カリウム、マグネシウム、亜鉛など。大葉に含まれるカロテンの量は野菜の中でも特に豊富に含まれており、西洋カボチャの約3倍とされています。

ミネラル類も多く、香りの成分などの効能も高いので昔から広く民間療法に利用されてきたそうです。

そして大葉には免疫力を高めてくれるαリノレン酸や、体脂肪を分解する働きをするローズマリン酸など注目すべき栄養素も含まれています。

#### シソの効能

シソから香る爽やかな香り成分→優れた防腐・殺菌作用を持っています。食欲がない時にも食欲増進・健胃作用がある→臭覚の神経を刺激し胃液の分泌を促して食欲増進。アレルギーを抑制してくれます。血液をサラサラに→動脈硬化や高血圧予防にも期待できる。



【もりや・ひろみ／八代市坂本町】



図③災害時のホームと駅舎（昭和 57 年福井弘氏）

昭和40年7月の大洪水で駅舎と宿官舎が流失、翌41年3月に完成した鉄筋の新駅舎も同57年7月の集中豪雨で再度倒壊（図③）、同12日には急行「くまがわ」号が土砂災害で立ち往生、乗客190名が近くの民家に避難した。同62年12月には駅舎は



図④現在のホームと上屋（海路方向）

撤去され、その後は駐車場となっている。この付近はその昔、宝暦5年（1755）にも「瀬戸石崩れ」という災害の歴史を有している。  
現在の1面2線の島式ホーム上屋の一部（図④）は開業当時のもので、待合室の木造の腰掛け（図⑤-1）や古



図⑤-2 古金庫



図⑤-1 木造腰掛

金庫（図⑤-2）の存在が懐かしい。海路寄り（西側）の0番ホームに旧

河口から上流まで、その駅を訪ねる

# 球磨川の駅・ものがたり



連載その⑥ —瀬戸石駅

熊本産業遺産研究会 松本晋一



図①対岸から見た瀬戸石駅

## 瀬戸石駅

鎌瀬のトンネル（371m）を抜け、右岸の中津道の集落を過ぎると川中に鬼飛岩<sup>おんとびいわ</sup>の大石が数個見える、その上手<sup>のたまため</sup>「野溜瀬」の先が瀬戸石駅である。この駅は旧鹿兒島本線開通の翌



図②下り1番ホーム（SL人吉号 8241）

年、明治43年（1910）6月25日の開業、球磨川左岸の最初の駅（八代市坂本町瀬戸石3145、図①）である。八代駅から19・6km、鎌瀬駅からは3・8kmの距離にあり対岸の球磨村、近くの葦北町と隣接する。名誉駅長は宮崎勲氏。



図⑧ 楮木丸（かわせみ温泉）



図⑦ 求麻川八郎氏  
(麦島勝氏撮影)

山深いこの駅の周辺には橋もなく、対岸の球磨村、楮木<sup>かじき</sup>まで、列車ダイ



図⑥ 旧貨物ホームと旧保線区事務所（左）

貨物取扱用ホーム、旧保線区事務所が現存(図⑥)する。昔の出荷物では松・杉・檜木・雑木を搬出、また球磨村からも木炭・坑木・竹材などの出荷で賑わった時期もあったそうだが、すでに昭和37年には貨物取扱を停止して



図⑨ 最後の渡船場Bと、旧楮木の渡跡A



図⑩ 旧渡船場跡

その真上には国道219号線が

この船は、平成19年3月に球磨杉を使用して、くま川下り株式会社で渡造船所で製作されたもの。現在、一勝地温泉「かわせみ」の入口横に足湯として保存展示されている(図⑧)。

やに合わせて駅下の渡し舟が使われていたが、球磨川流域最後の船頭の求麻川八郎さん(図⑦、写真家の麦島勝氏とは同年とのこと)も高齢のため、流域最後のこの渡船場(図⑨↑B)も平成24年10月に廃止されている。

球磨川最後の渡し舟「楮木丸」の

いる。以前には保線用事務所や工事車輛が置かれ、当時は数十名の鉄道作業員が居たそうである。

平成12年の1日平均乗車人員は12名で、平成24年にはその三分の一の4名しか乗車しておらず、昭和61年11月から無人駅となっている。現在、上り10本(八代行)、下り10本(人吉方面)の各駅停車のみが運用する。

この区域は球磨川の流れが大きく北東に湾曲する場所で、洪水時には高田辺からの濁流が御前岩<sup>ごぜいわ</sup>の瀬(図⑪)から直接駅方向へと向かう場所にある。先の2回の洪水時、この駅の上流1500mには、すでに昭和33年には瀬戸石ダムが完成しているが、しかし、そのダム放流との関連性は不明。この駅は今後も災害受難の駅となりうる可能性がある。現在、

大災害避難場所として中津道の中津道教育センターが指定されたが、駅からは約2km遠方の距離にある。

駅傍の福山さん(元興国人絹勤務72歳)の話では、戦後すぐのキティ台風の時には駅は勿論、家の玄関先まで濁流が来たとのこと。また駅上手には鮎・鰻を食べさせる料亭も在ったと言う。駅周辺の住民は、昔は山方仕事(山本家、永椎家)、川仕事(舟宿、鮎釣り)で生計を立てていたそうである。

ご自宅も大正期には瀬戸石の下手で舟宿を営んでいたとのこと、道路も以前はウサギ道ばかりで線路脇を通路として利用したと言う。鉄道の利用は昭和26年に人吉で開催された「子ども博覧会」に学校行事で行き、ウォーターシュートを見学、メリーゴーラウンドには乗った思い出があると聞いた。



図⑭山側に移動した線路（左、列車はキハ16形）



図⑮現在の高田辺トンネル付近

〈参考資料〉

- ・前掲 各駅停車「熊本県」昭和58年
- ・前掲「くまもとの駅と港」昭和58年
- ・前掲「肥薩線100周年・駅シリーズ」時代と共に、平成21年3月
- ・前掲「肥薩線の近代化遺産」平成21年
- ・ウィキペディア「瀬戸石駅」
- ・麦島勝「球磨川の50年」建設省
- ・「新・球磨学」熊本日日新聞社 平成2年10月
- ・「完成した瀬戸石発電所」電源開発株式会社 昭和33年10月
- ・「人吉―山江―八代線に」熊日新聞 昭和25年7月8日

嵩上げされている(図⑮)。同じく県道の白石・田浦線も嵩上げされた。その当時、ダム建設による肥薩線の

路線変更論議のあったことは興味深い。現時点での水利使用許可期限は平

成46年3月31日で、このダムの撤去ならびに運用の変更については未定である。



図⑪御前岩から瀬戸石駅を望む

左右に走り、さらにこの駅の真東12kmには標高1302mの烏帽子岳山が聳え、その手前を九州自動車道の肥後トンネル6340mが貫通する。

## 瀬戸石ダムと線路

瀬戸石駅の上流1.5kmには電源開発(Ｊパワー)の重力式コンクリートダムと発電所一体型の瀬戸石ダム(最大出力2万kw 図⑫)がある。川の途中には相良の殿様が参勤交代で休まれたと言う大岩(御前岩

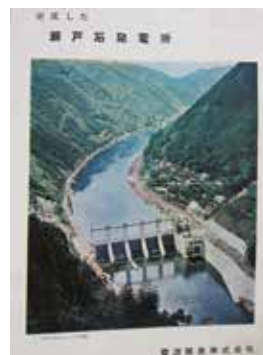


図⑫瀬戸石ダム

又は警女岩、図⑫)が川の中央にしっかりと鎮座しているのが見える。

ダムの開設地は芦北町大字海路字桃木平1851、球磨川の電源開発第1号の低落差式発電ダムである。

昭和31年9月から西松建設により土木工事中、2年後の同33年9月に発電を開始している(図⑬)。このダム工事により球磨川沿岸を併走していた線路は、一部水没のため山側に約10m移動、新たに高田辺トンネル(395m 図⑭)が新設され、同時に左岸の発電所敷地内にある路線も



図⑬当時のパンフレット



人吉市の球磨川沿いにあった「古城旅館」の庭にて（本誌第5月号掲載）。下は同位置から撮影した現在の様子



年（1957）に石原慎太郎は『太陽の季節』を書いた。この写真から2年後のことである。当時の人吉は『太陽の季節』を先取りしている。球磨川の風景は、この60年で、ずいぶん変わった。コンクリート化が目立つ。いまは、モーターボートで遊べない。写真の2人の仲居さんは友だちであった。その後、お二人はどのような人生を歩まれたのであろうか。それを知りたい気分になる。

がら、ここでは、それについて深く説明する余裕はない。しかし、写真をみると、当時の仲居さんたちのファッションビリティに驚く。若い女性であるから流行に敏感であったのは当然にしろ、それでも写真の仲居さんは飛び抜けている。高め

のスタンドカラーの襟、中国風のフレッチ袖の服など簡単に着こなせない。髪の色も最先端である。水着もそうだ。撮影者の東儀一郎さんが、なぜ人吉に赴いたのか、その理由は分からないけれども、仲居さんたちの姿に魅了されたのはまちがいない。昭和32



## 昭和の写真館 ⑤

撮影／東儀一郎

旧坂本村中心に昭和20年後半から40年後半までの出来事をカメラに収めていた故・東儀一郎さんが残した写真を紹介する。

## 人吉の仲居さん



昭和30年の人吉市水の手橋にて（本誌4月号掲載）。下は現在の水の手橋



「仲居」さんは、どのような仕事をしていたのであろうか。残念な

昭和30年（1955）7月、人吉市の球磨川でモーターボートを走らせるイベントがあった。掲載写真は、そのときのものである。翌昭和31年の『経済白書』は「もはや戦後ではない」と書いたが、写真をみると、戦後復興のいきおいが人吉市でもみなぎっていることが分かる。モーターボートで遊ぶだけの精神的ゆとりができていたのだ。モデルは旅館の仲居さんである。いまの「仲居」の仕事は知っている。しかし、60年前も今と同じなのかは分からない。当時、どういう人が「仲居さん」になったのであろうか。

# 泣くな。ピート・ローズ



岐部 明廣

我らのヒーロー「ichiro」

が日米通算安打の世界記録を達成した。そしてギネスブックにも認定された。メジャーリーグ（MLB）記録をもつピート・ローズは悔しさのため、毎夜泣いているらしい。自分が日本のプロ野球でプレーしていれば、

「5000本打っていただろう」と戲言さえ言っている。

ichiroの日米通算記録を考慮したうえでichiroの通

算総合力がMLBの歴代選手の第何位くらいに匹敵するかを考察した。わたしも物好きだなア。ひまだなア。その結果は――。

アメリカではメジャー選手の評価はWARとOPSが一般的らしい。WARは「勝利への貢献度」を総合的に計算した数字だ。算出方法には複雑な計算式があるのだ。通算WARのベストテンには歴代の名選手が並ぶ【表①】。

ichiroのシーズン最高W

【表①】通算WARランキング（MLB）

|   |              |       |
|---|--------------|-------|
| ① | ベーブ・ルース      | 183.6 |
| ② | サイ・ヤング*      | 168.4 |
| ③ | ウォルター・ジョンソン* | 165.6 |
| ④ | バリー・ボンズ      | 162.4 |
| ⑤ | ウィリー・メイズ     | 156.2 |
| ⑥ | タイ・カッパ       | 151.1 |
| ⑦ | ハンク・アーロン     | 142.6 |
| ⑧ | ロジャー・クレメンス*  | 140.3 |
| ⑨ | トリス・スピーカー    | 133.7 |
| ⑩ | ホーナス・ワグナー    | 131.0 |

\*印はピッチャー。参考までにichiro 58.4（15年間のMLBだけの通算WAR）は残念ながら196位ととても低い。

ARはシーズン最多安打262本を打った2004年の9・2日から、20年間もその活躍をつづけてようやくベーブ・ルースに追いつくというわけだ。ベーブ・ルースの凄さがかかる。

OPSは出塁率と長打率との合計値だ。OPSは四球の多いホームランバッターが当然高くなる【表②】。通算OPS（出塁率＋長打率）

の出塁率では四死球も単打と同じ価値となる。しかし塁打には四死球は加えない。通算OPSも率なので、通算打率と同じく晩年に力が落ちてくるとどうしても低下する。長期間高い率をキープするのは至難の技なのだ。だから通算OPSと通算塁打の両方とで評価する必要がある。

タイ・カッパの通算打率0.367

（打席数13068）は驚異的な数字だ。1シーズンだけ大活躍する選手は多いが24シーズンも故障もなく活躍し続けるのが神業なのだ。だ

から故障しなかったピート・ローズとichiroはタイ・カッパと同様にすばらしい【表③】。ホームランと四球の少ないichiroの通算OPSはさほど高くはないが、日米通算塁打は5755でMLBの第8位にあたる【表④】。これも今年2016年7月18日、ピート・ローズを抜いた。

ichiroのようなリードオフ

【表②】通算OPSランキング（MLB）

|   |              |       |
|---|--------------|-------|
| ① | ベーブ・ルース      | 1.164 |
| ② | テッド・ウィリアムズ   | 1.116 |
| ③ | ルー・ゲーリック     | 1.080 |
| ④ | バリー・ボンズ      | 1.051 |
| ⑤ | ジミー・フォックス    | 1.038 |
| ⑥ | アルバート・プホルス*  | 1.022 |
| ⑦ | ハンク・グリーンバーク  | 1.017 |
| ⑧ | ロジャース・ホーンズビー | 1.010 |

参考までに

⑦タイ・カッパ（0.945）

ピート・ローズ（0.794）

ichiro\*（0.834＝日米通算）

王貞治（1.080）

（\*印は2016年現役）

【表③】通算打率（MLB）

|   | 通算打率（MLB）                  | 現役最終年 |
|---|----------------------------|-------|
| ① | タイ・カッパ 0.367（打席数 13068）    | ～1928 |
| ② | R・ホーンズビー 0.358（打席数 9480）   | ～1937 |
| ③ | エド・デラハンティ 0.346（打席数 8400）  | ～1903 |
| ④ | トリス・スピーカー 0.345（打席数 11988） | ～1928 |
| ⑤ | テッド・ウィリアムズ 0.344（打席数 9791） | ～1960 |
| ⑥ | ビリー・ハミルトン 0.344（打席数 7608）  | ～1901 |
| ⑦ | ダン・ブラザーズ 0.342（打席数 不詳）     | ～不詳   |
| ⑧ | ベーブ・ルース 0.342（打席数 10617）   | ～1935 |

参考（27位）ichiro 0.325（打席数 14393）日米通算打率

（108位）ピート・ローズ 0.303（打席数 15861）

【表④】通算塁打ランキング（MLB）

|   |               |      |
|---|---------------|------|
| ① | ハンク・アーロン      | 6856 |
| ② | スタン・ミュージアル    | 6134 |
| ③ | ウィリー・メイズ      | 6066 |
| ④ | バリー・ボンズ       | 5976 |
| ⑤ | タイ・カッパ        | 5859 |
| ⑥ | A・ロドリゲス*      | 5806 |
| ⑦ | ベーブ・ルース       | 5793 |
| ⑧ | ichiro*（日米通算） | 5755 |
| ⑨ | ピート・ローズ       | 5752 |

（\*印は2016／7／18現在）

参考までに王貞治 5862

# 定吉が行く

— 5 —



© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭 鳥飼 博



## 【線香屋の定吉】誕生

平成21年4月、旧国鉄機関区OBの努力により矢岳駅に保存されていた8620系の蒸気機関車が、熊本—人吉間を「SL人吉」として運行を開始した。国内では現役最高齢の機関車であるが、その設計図が発見されたことにより復活したのである。

もちろん人吉駅前広場の男と若武

者の二人も活気付いた。この頃には、男の首には拍子木が下がっており、「からくり時計」に合わせて拍子木を鳴らしながら練り歩くスタイルとなっていた。しかし、駅周辺にお住まいの方々には、からくり時計が奏でる球磨の六調子の音色とは合っておらず、下手っぴ〜と思われる様である。

その年には駅前広場も整備され、「からくり時計」は現在地に移された。「SL人吉」の運行日には、街中

観光のための人力車と車夫も駅前広場に姿を見せていた。

青井阿蘇神社の国宝指定、SL人吉の運行開始、駅前広場のからくり時計と、人吉駅周辺には人が集まり活気が出始めていた。

からくり時計の前に立つ二

【表⑤】通算得点ランキング (MLB)

|   |          |                  |
|---|----------|------------------|
| ① | R・ヘンダーソン | 2292 (通算 WAR18位) |
| ② | タイ・カップ   | 2246 (通算 WAR 6位) |
| ③ | バリー・ボンズ  | 2227 (通算 WAR 4位) |
| ④ | ハンク・アーロン | 2174 (通算 WAR 7位) |
| ⑤ | ベーブ・ルース  | 2174 (通算 WAR1位)  |
| ⑥ | ピート・ローズ  | 2165 (通算 WAR58位) |
| ⑦ | ウィリー・メイズ | 2062 (通算 WAR 5位) |
| ⑧ | ichiro * | 2033 ~日米通算       |
| ⑨ | A・ロドリゲス* | 2020 (通算 WAR16位) |

(\*印は2016/7/18現在)

参考までに王貞治 1967

【表⑥】通算出塁数と通算打席数 (MLB)

|   |                 |                   |
|---|-----------------|-------------------|
| ① | ピート・ローズ         | 5929 (打席数① 15861) |
| ② | バリー・ボンズ         | 5599 (打席数⑩ 12606) |
| ③ | リッキー・ヘンダーソン     | 5443 (打席数⑤ 13346) |
| ④ | タイ・カップ          | 5434 (打席数⑥ 13084) |
| ⑤ | ichiro * (日米通算) | 5375 (打席数② 14393) |
| ⑥ | カール・ヤストレムスキー    | 5304 (打席数③ 13991) |
| ⑦ | スタン・ミュージアル      | 5292 (打席数⑨ 12717) |
| ⑧ | ハンク・アーロン        | 5205 (打席数④ 13941) |
| ⑨ | トリス・スピーカー       | 4998 (打席数⑳ 11992) |
| ⑩ | ベーブ・ルース         | 4978 (打席数㉗ 10617) |

(\*印は2016/7/18現在)

参考までに王貞治 5290 (打席数 11866)

マンは打点より得点の多さでその活躍ぶりがよくわかる。  
ichiro の日米通算得点は2033でMLBの第8位にあたる【表5】。しかしピート・ローズにはまだ100以上差がある。リー

ドオフマンとして群を抜くR・ヘンダーソン、ピート・ローズ、ichiro の3選手がベストテンに入っている。他はホームランバッターだ。他の追従をゆるさない盗塁世界記

録(1406)をもつR・ヘンダーソンは四球も多いため通算出塁数も多く通算得点は堂々の第一位だ【表⑤】。

泣くな！ ピート・ローズ。

通算出塁数5929、通算打席数15861はあなたのまだまだ不滅の世界記録だ【表⑥】。

泣くな！ピート・ローズ。あなたはR・ヘンダーソン、ichiroとともに史上最高のリードオフマンだ。

【きべ・あきひろ／外山胃腸病院院長、人吉市】

人は、後の相良藩吉組主宰【線香屋の定吉】と、武者姿のクリーニンング店主【谷平】である。

「線香屋の定吉」は、平成22年にJR九州など官民でつくる「南九州観光調査開発委員会」が顕彰する『ホッとハート南九州キャンペーン』の表彰を受け、二人は平成24年に人吉温泉観光協会からも「観光功労者」表彰を受けた筋金入りのボランティア精神の持ち主である。この二人のことを色々と言う人はいるが、この地域や他所には居ない特別なキャラクターの持ち主だからこそ、表彰を受けたり活動状況の取材が多いのである。彼ら二人の地域への多大な貢献には、感謝し脱帽するしかないと思っている。

男の週末の日程は、以前と変わって

いなかった。ただ、電動自転車は、昭和30年頃に見かけた黒色の荷台の大きな自転車に変わっていた。前輪の泥除けの最上部には「Fuji」のマークが入っている。聞くと、球磨村の豆腐屋の倉庫に眠っていた自転車を1万円で譲ってもらった人から、職権を乱用してそのまま1万円で買い取ったらしい。意外に金銭面はちゃっかりしている。古い自転車の車輪やリムは錆びており、あちこちに傷みが見えた。1万円では高い買い物ではないかと思われる程である。そんな自転車のボロボロのサドルが平成28年の春、何者かに引き裂かれていた。どうしてそんな事をするのか犯人の気持ちに私には理解できなかった。雨天や荷物がある日以外は7年間も愛用していた自転車なので、悲しみもひとしおだったのである

う。男はとても悔しそうにしていた。この自転車は意外に人気があった。男が駐輪していた場所から10メートル位移動している事は普通で、勝手に乗り回す者は片手の数では足りない位に居たそうだ。

ボロボロの自転車を何処に停めようかと青井阿蘇神社周辺をウロウロしている男に、「遠慮せんで境内の中に入れて良かですよ。」と、宮司から声を

掛けられた。「宮司さん、ばってん国宝の神社にこぎゃんボロかとば入れて良かとですか。」と、男は恥ずかしそうに言う、「なあ〜ん、良か良か。」と宮司のお許しをいただき、嬉しそうに一礼をして自転車を押しながら境内に入っていた。

青井阿蘇神社の参拝客も多く、男も案内のお手伝いをしている様で、いつの間にか宮司とも親しくなっていた。そのお陰か、男の案内は以前とは格段の違いを見せている。「私はもぐ

りの案内人で、線香屋の定吉と申しませす。ただし線香は売っておりません。今日は、国宝青井阿蘇神社にご参拝いただきありがとうございます。」前講釈から違っていた。参拝客の時間の都合を聞き、時間に合わせて案内をしている。もう宮司の説明を書取ったメモも持っていない。自分のことを【線香屋の定吉】と名乗っていた。

この時から私は、男に会うと話はないが一礼をすることにした。理由は、人吉駅前広場や青井阿蘇神社で眺めていた男とは全く別人の様に感じただからである。

男は、人吉駅前で知り合った仲間たちから、日本香堂の毎日香のキャラクター【定吉】に似ていると言われ、日本香堂に【線香屋の定

吉】という名前を使用しているか申請をしていた。そして、日本香堂認定の【線香屋の定吉】となっていたのだ。メガネもキャラクターが掛けている丸メガネに変わっていた。仲間たちはそれを記念して、男の自転車に【定吉号】という手作りの名札をプレゼントしていた。駅前広場で案内を終えた男は、愛用の自転車を置いた所へ戻った時に見た【定吉号】の名札に感動し、これからも観光客に喜んでもらえるように頑張ろうと誓ったそうだ。

その年の暮れから平成22年正月半ばまで、男の姿はどこにも見当たらなかった。私は三が日を過ぎてからの週末を、男のいつもの時間割を真似て行動していた。すると、昼前になって青井阿蘇神社の東門でお払いを受けてい



る男の姿が目に入った。お払いを受け  
た男は手水舎で手と口を清めると、颯  
爽と拝殿に向かいゆつくりと参拝をし  
ている。その姿を新年初めての参拝の  
様に感じた私は、男のお払いを行った  
若い神職に尋ねた。「住吉さんは、お

母様が昨年末にご他界なさいましたの  
で、お払いを受けて境内に入られまし  
た。」と、神職は男の名前まで教えて  
くれた。「ご両親は、敬神の念篤き方で、  
お父様は当神社の奉賛会長をされたお  
方です。」とのことであつた。男の父親

は、旧大口市の出身で、人吉市で木材  
業を営みつつ人吉市議会議長まで務め  
られた方であつた。

【とりかい・ひろし／人吉市】



私は、「食」には2つの役割がある  
と思います。

1つは、食欲を満たす「食」。  
これは、楽しく食べる。仲良く食べ  
る。という日常当たり前のことです。

ご飯を食べる時間には、家族がい  
たり、友達がいったりします。食事の  
マナーを守り、食事をきちんとエネ  
ルギーに変える時間です。

最近では「孤食」といって、独りぼっ  
ちで食べたり、一品目を食べたり、一

食だけ食べたりなど、現代がもたらす  
「孤独な食事」についても問題視さ  
れています。私は基本、食事は楽し  
いものであるべきだと思っています  
し、それは全ての人がそうだと思  
います。

食の問題は限りなくあります。当  
たり前のことほど、むづかしいもので  
す。

大人でさえ、「いただきます」と「ご  
ちそうさま」を完璧に行っている人は



少ないものです。それほど私たちは一  
日三度当たり前のことを繰り返して  
生きています。

経済が発展するにつれ、「食」が変  
化していくことは誰にも止められま  
せん。

早く食べれるもの、安く買えるも  
の、保存できるものに需要が集中す  
ると、それを供給すべく経済もまわ  
ります。そうやって世の中動いていく  
のだと感じています。

私はそれに逆行するように粗食を  
勧める仕事をしています。世の中  
の動きに逆らうことはできません。

「食」の役割の2つ目。それは、医  
食同源の「食」。

これは、生きていくために食べるこ  
と。病気を治すために食べることで  
す。

現代病のほとんどを、私は「贅沢  
病」と呼んでいます。食べすぎて病  
気になっているからです。医食同源と  
は、「食べることは、体を強くするこ  
と」という意味で、東洋医学の観点  
での言葉です。

例えば、胃が痛いとき。胃薬の錠  
剤を飲むのではなく、梅干しを食べ  
ます。梅干しには「三毒を絶つ」といっ  
て、血の毒、水の毒、食の毒を消す  
力があります。

私はそれを全て陰陽で調和してい  
きます。これは、西洋医学ができる  
ずっと前からある、「人間が生き延び  
るための知恵」です。どんなに経済  
が成長し、いろんなものが買えるよ  
うになつて、医療で治療できるよう  
なつても、医食同源の知恵だけは失っ  
てはいけません。

現代食を食べすぎて病気になる事  
もよくないし、粗食に努めすぎて社  
会から切り離されていくことも違  
うと思っています。

ふたつの「食」をバランスよく進め  
ていくことが、これからの時代を生  
きる私たちにとってなにより大事なこ  
だと思っています。

【うらかわ・はるか／人吉市  
「さんぽカフェオーナー」】



## 未刊の遺稿まとめる

## 北御門二郎訳「トルストイ短編集」

本誌連載の『文読む月日』でもお

馴染みの翻訳家北御門二郎さんの著書

「トルストイ短編集」が、遺族の手  
によってまとめられ、先月17日の命日

に合わせて刊行された（写真）。

北御門二郎さんは大正2年

（1913）球磨郡湯前町に生まれ

レフ・トルストイ専門の翻訳家で、文

学研究者。トルストイの平和思想

に共鳴し、農業を営みながら彼の

作品を翻訳し、良心的兵役拒否を

貫いたことでも知られる。

熊本大学名誉教授の田口宏昭さ



「トルストイ短編集」

発行：人吉中央出版社  
A5判 192頁  
定価 1500円（＋税）  
送料 100円

んが、序文と表紙絵を担当しており、  
「このたび、この遺稿集が、ご遺族の  
北御門すぐ・たえ子ご夫妻の地道  
な編集作業により、没後十二年の命  
日である七月十七日にあわせて刊行  
されるに至ったことは、北御門二郎先  
生の不肖の弟子である私としても喜び  
に堪えない」と記している。

収録されているのは「カフカーズの  
捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞  
踏会の後」「壺のアリョーシャ」「鷹造  
クーポン」の5編で、小誌ではこれを  
記念して、「壺のアリョーシャ」を2  
回に分けて特別掲載する。

## 「壺のアリョーシャ」について

1905年、トルストイ77歳

の時の作。訳者の北御門二郎さん

は昭和63年、75歳でこの作品を訳

了。訳者序文の中で北御門さんは、

「これは、人間がどこまで善良で、

献身的で、忍従に堪え得るかの極  
限状態を描いたものと言えよう」  
と書いている。

## 壺のアリョーシャ (上)

レフ・トルストイ／作

北御門 二郎／訳

アリョーシャは末息子だった。母親が彼に牛乳のはいつた  
壺<sup>つぼ</sup>を持たせて、補祭<sup>ほさい</sup>の奥さんの所へやったら、途中で蹟<sup>つまず</sup>い  
て壺を割ってしまった。母親からはぶたれるし、子供達か  
らは《壺、々》<sup>うぶ、々</sup>といっただけからかわれる。とうとう壺が渾名  
になってしまった。

アリョーシャは小さくて痩せて薄のろで、耳は翼みたい  
に突き出て、鼻は大きかった。子供達はみんな、《アリョー  
シャの鼻は土饅頭の上の犬》とはやしたてた。村には学校  
があつたけれど、アリョーシャは学校へやらせて貰えず、又  
勉強している暇もなかった。兄が町の商人のところで働い  
ていたので、アリョーシャは小さい頃から父親の手伝いを  
させられた。

六才の頃からもう姉達にまじって牧場の羊や牛の番をし

たり、もつと大きくなると、夜も昼も馬の番をしたりし  
た。そして十二才の頃はもう畑を耕したり、荷馬車を引  
いたりした。力は無いけれど、仕事は上手だった。そして  
いつも快活だった。子供達にからかわれても、黙っている  
か、笑うかした。父親から叱られる時は、口答えしないで、  
黙って聞いていた。そして父親が叱り止めると、につこり笑っ  
て又すぐ仕事に取りかかるのだった。

アリョーシャが十二才の時、兄が兵隊にとられた。そこ  
で父親は、兄の代りにアリョーシャを商人の屋敷番にやる  
ことにした。アリョーシャは兄の古靴を貰い、父親の帽子  
や外套をもらって町へ連れて行かれた。アリョーシャは自  
分の服装に大喜びだったが、商人は彼の恰好が気に食わな  
かった。

「セミヨンの代りには、もっと人間らしい者を連れて来る  
と思つてたのに」と商人はアリオージャをじろりと見なが  
ら言った。「こんなはなたれ小僧をつれて来て。これでも何  
か役に立つのかい？」

「何でも出来ます。馬を車につけることも、その車の御者  
も。働くのもよく働きます。見かけは痩せつぽちですが、  
力があります」

「うん、そうかなあ」

「何といつても――口返事しませんので。仕事もよくやり  
ますよ」

「まあいいや、使つて見よう」

こうしてアリオージャは商人のうちに勤めることになつ  
た。

商人の家族はそう多人数ではなかつた。まずおかみさん  
と、お祖母おばあさんと、あまり学校へは行かないで家の商売を  
手伝つて家内持ちの長男と、中学ギムナジヤを出て大学にはいつた  
けれど、中途で退学させられて、家でぶらぶらしている次  
男と、現にギムナジヤに行つてゐる妹と、それだけだつた。

最初アリオージャはみんなの受けが悪かつた。田舎まる

うに命じた。新しい靴を買つてアリオージャは大喜びだつ  
たが、足はもとのままの古い足なので、一日中の走り使い  
で夕方になると足がうづき、自分の足に腹を立てるのだつ  
た。それに又、父親が給料を貰いに來た時、商人が給料  
から靴代を差し引いたことを知つて怒りはしまいかと心配  
した。

アリオージャは冬も夜明け前に起き、薪割りをしたり、  
庭掃除をしたり、牛や馬に食わせたり飲ませたりした。  
それからペーチカに焚き付け、家族の人達の靴を磨き、服  
にブラシをかけ、その後サモワールの火を起こしてびかび  
かにしておく。するとこんどは、番頭が品物を取らせに倉  
にやつたり、女中がパン粉を練つたり鍋を洗つたりの手伝  
いをさせたりする。その後は又手紙を持つて町へやらされ  
たり、中学に主人の娘を迎えにやらされたり、お祖母さん  
のためのオリーブ油を買いにやらされたりする。その揚げ  
句《どこへ行つてんだ、馬鹿っ！》と誰彼に言われたり《何  
も自分で行かなくつても、アリオージャが行くよ。アリオ  
ージャ！おいアリオージャ！》と言われたりする始末。そし  
て結局アリオージャが行くことになるのである。

出しで、身なりも粗末で、不作法で、誰にも構ひなしに《トウ  
イ（お前）》と言つからだつたが、そのうちみんなが馴れ  
て來た。前の兄以上に働くし、本当に口答えはせず、ど  
んな使いに出されても喜んでさつさと行き、一つの仕事が  
すむと、さつさと次の仕事にかかるといった工合である。で、  
わが家と同じように、商人の家うちでもいろんな仕事が彼の  
上にふりかかつて來た。彼が働けば働くほど、みんなが仕事  
を押し付けた。おかみさんも、おばあさんも、娘も、息  
子も、番頭も、女中も、みんなあちこちに彼を使いによつ  
たり、いろんな雑用を命じたりした。しよつちゅう《さあ、  
一つ走り行つて来ておくれ》とか《アリオージャ、これ頼むよ》  
とか《何だアリオージャ、忘れたのか？困るぢやないかア  
リオージャ》とかいう声が聞える始末だつた。それでアリオ  
ージャはあちこち駆けまわつたり、あれをしたりこれをし  
たり、言いつけられたことは忘れないように注意して何もか  
も片付け、いつもにこにこしていた。

それで、兄譲りの古靴が間もなくひどく傷んで、どう  
とう指先がばくばくになつて指が見えるようになったので、  
主人がみつともないと叱り付け、市場で新しい靴を買うよ

朝御飯も彼は立ちながら食べ、晩御飯もめつたに皆と一  
緒ということではなかつた。女中は、何をぐずぐずしてたの  
と叱り付けたが、それでも可哀そうに思つて、昼御飯にも  
晩御飯にも温かいものを残しておいてくれた。祭日前や祭  
日当日など、殊の外忙しかつた。それでもアリオージャは  
お祭りが大変嬉しかつた。何故ならお祭りの日にはほんの  
ちよつぱり、六十カペイくらいだけど、お小遣いを貰つ  
たからである。たつたそれだけでも、やつぱりそれは自分  
の金で、自分の自由に使えるのだ。自分の給料など、見た  
こともなかつた。父親がやつて來て商人から彼の給料を受  
け取つた時も、アリオージャには、何でそんなに早く靴を  
傷めたかと文句を言つただけだつた。

《お小遣い》が二ルーブル貯まつた時、彼は女中の勧めで  
赤い毛糸のセーターを買つたが、それを着た時、嬉しさに  
笑いが止まらないほどだつた。

アリオージャは口数が少なかつたが、話す時はいつもぼつ  
りぼつりと手短かに話した。何か言いつけられたり、出來  
るかどうか訊ねられたりすると、いつも即座に《はい、出  
來ます》と言つて、すぐにそれをするのだつた。

# 記憶の落し穂

その⑤

絵と文／坂本福治



## 五日前の高田素次

高田素次先生が八十歳の時、先生を良く知る友人が、「高田先生の声の出らんことないやっ」と言った。悲しいが、もう長くないと思った。ところが、その高田先生本人からの電話である。「服部和實さんの、本ば出しなつたろ。何とかならんどか」。服部先生と私のつきあいの深さをこ存じだったのだ。

私は夢かと思うほど驚き、その本を持って高田先生宅へ急いだ。私の到着を知らせるごとく鶏が大声をあげた。先生は横になっておられた。早くおいとましなければと思ったが、先生のお話がなかなか終わらない。水上村誌ができた時のことだった。私も知る村会議員の一人が、「北御門」二郎さんのことに百頁も使つてじやつて」と言った。それを聞いて高田先生はムカッと来られた。「北御門さんななあ、あの山奥に居つて、日本の翻訳界ばゆさぶつたとい」と、ひとしきり説教された。「あん、水上はわからんばい」と、水上出身の私に言われた。北御門さんは、終戦まで、多くの村人からは狂人と思われていたのである。この五日後、高田先生は永遠の旅立ちをされた。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

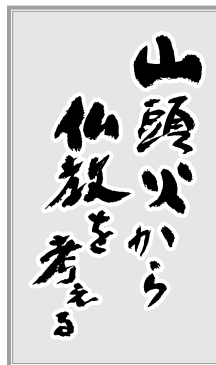
お祈りの言葉は全然知らなかった。母親に教わったことも全然忘れてしまった。それでも朝と晩と、十字を切つてお祈りをした。

そんな風にして一年半が過ぎ、二年目の半ば頃になった時、彼の生涯での最大の異常な事件が発生した。その事件というのは、つまり、彼が驚いたことに、世の中には互いに相手が必要とする人間関係以外に、それとは全然別の人間関係があるということを発見したことだった。ある人が長靴を磨くことも、買物物を運ぶことも、馬を繋ぐことも相手にしてやらなくて、つまり相手に何の役にも立つてやれなくて、それでも相手としてはどうしてもその人に奉仕しその人を助（いた）めたいと思う、といった人間関係があつて、その人というのがほかでもないこの自分、アリョーシャである、というわけである。そのことを彼は女中のウスチーニヤを通して知った。ウスチューシャ（ウスチーニヤ）は身寄りのない若い娘で、アリョーシャと同じように働き者だった。

(下へつづく)

## 山頭火の魅力の秘密を解きながら共に仏教を考える

岐部明廣 著 絵／坂本福治



■四六判／上製本／144頁  
■定価 1,080円(税込)  
送料 200円

「人吉・球磨山頭火の会」会員でもある著者が、放浪の俳人・種田山頭火の生き様を熱く語った冊。



直販の申込は

〒868-0086 熊本県人吉市下原町瓜生田 675-3  
TEL・FAX0966-22-7601 info@hitoyoshi.co.jp

人吉中央出版社

## 上杉芳野の「あがっ段」④

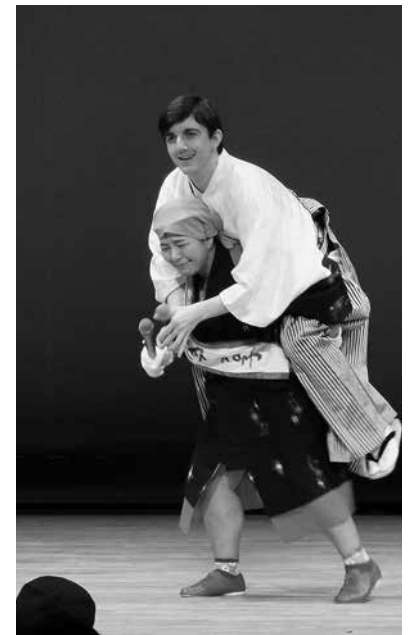
# 「和の熊本宝塚」のおかげ

7月10日(日)、「第1回立ち上げ熊本」、「第6回立ち上げ東日本、大震災復興支援チャリティーショー」を無事に終える事が出来た。

回を重ねるごとに毎年チケットの売れ行きも良く、ポスターを貼ったと同時に、一ヶ月もしないうちに前売り券が完売してしまう。何とありがたい事だろう。

今年は特に熊本震災まで加わったせいでお客様の気持ちはすごかった。

熊本震災の写真展示を自衛隊に依頼したが、その写真をくいるように見つめる人、出演者も熊本、東日本



ALTのジェームス・ハワードさんと共演

が元気になる様にと力強い歌や踊り、コントが多かった様に思う。その中で最も感謝しなくてはいけない人団体がいる。

その人の名は、中村花誠先生である。祖母の影響を受け3歳で日本舞踊を始め、15歳で日舞の名取となり西日本では数少ないとい

う、プロの女流演奏家であり、「熊本の文化と観光の振興を」との思いで座付舞、「はつ喜流」を立ち上げ「ザわらべ」や「こわらべ」の育成、これからの子供達の成長に備えていらつしやる人です。

昨年の11月20日には熊本市の「輝女<sup>アルジョ</sup>」の表彰も受けられました。輝女とは、し

なやかな感性、たくましい行動力、思いやりのネットワークで郷土熊本を支え、勇気を持って前進していく女性に贈られる賞です。

こんなステキな賞を頂かれた中村花誠先生に、私達「芳野とゆかいな仲間達」の実行委員会は、4月に会

議を開き「毎年7月の第2日曜日にチャリティーショーを開いているが今回は熊本地震もあり、中村花誠先生の踊り場もメチャクチャになり、練習に来る子供達の家もいろんな被害を受けているので、とても7月は無理だろうから、11月頃に延期

しましょうか」と決め、その事を中村花誠先生にお伝えした。

「何言つてんのよ、もう何でも5月から動きだすんですよ。決めた通り実行しなさい」とキツパリ言われた。

私は小さい声で「花誠先生、2、3人くらい連れて

強い言葉のお陰で予定通り実行する事が出来た。

会長の前田一洋先生を始め、ヒョロヒョロ痩せていて

も一番動き回って下さる宮原信晃先生、それに司会をしながら踊る竹原篤子さん。その竹原さんとコンビ

で司会しながら歌う麦生田忠さん。ボランティア仲間の村山悦子さん、田代幸介

さん、大塚繁子さん、瀬口佳代さん、それぞれが私の手足となつて支えてくれた。人吉球磨郡中の温かい協力と支援の輪に感謝である。

【うえずぎ・よしの／球磨郡の元気応援団長。あさぎり町上】



20年らいのお付き合いのある中村花誠先生と  
ならんで舞台上に立たせて頂きました

来て頂けますか?」と聞く  
と先生は、「2  
3人じゃない、全員連れて来るわよ」と言つて下さった。

その時のありがたい、力

# 筏師

(編集部)

球磨川は大動脈であった。人々の移動の手段として利用されただけでなく、物資の運搬に不可欠の存在であった。重要物資のひとつは木材であった。木材は筏に組まれて下流に運ばれた。

明治41(1908)年の鉄道開通は運送手段としての球磨川の性格を一変させた。川舟頭、筏師は仕事を失い、新しい仕事を求めて他所に転居した。打撃の神様・故川上哲治さんの祖父もそうであった。彼の祖父は旧坂本村葉木集落(1831番地)から明治44年に球磨郡大村(現人吉市)に移った。舟運・筏関係者は八代だけでなく、人吉も「町」として意識

していた。

しかし、鉄道開通によって筏による木材輸送が根絶されたというわけではなかった。筏は舟とちがい、木材の輸送方法としては安価であるだけでなく、伐採地から木材を駅まで運ぶ手間を省く有用な方法であった。結論的にいえば、筏による木材の輸送は鉄道開通によって縮小したとはいえ昭和30年竣工の荒瀬ダム建設までつづけられたのであった。鉄道とちがいダムは川の流れを遮断し筏流しの息の根を止めた。それは筏師の失業を意味する。そのためダム建設にともなう補償交渉は漁協より筏師たちとの間で難航

した。補償交渉の妥結も漁協より大幅に遅れた。漁協が川漁師の失職をどの程度まで深刻に受け止めていたのかについては別の機会に触れる。

筏師の仕事は具体的には、どのようなものであったか。昭和29年頃までの様子を旧坂本村中津道地区・鎌瀬地区の場合について紹介する。

## 仕事内容

筏師の報酬は工場労働者より高額であった。熟練労働者の月給が100円の頃に、筏師は1回の流しで300円を得ていた。2人で流せば1人あたり150円になる。これを「二人前半」といった。雇用労働者の賃金の1.5倍の収入の意味である。しかし、定期的に仕事があつたわけではなく、筏作業に要する費用はすべて自

己負担であった。専業ではなく農作業との兼業が多かった。自己所有の畑もあつたが、地主から土地を借りて小作人的に農作業をする者も少なくなかった。そうした小作人は地主のもとにたびたび「機嫌うかがい」に出向いた。地主に対しては敬語をつかった。世間

では、専門職ではなく、未熟練工と評価されていた。定期的収入でないこと、危険性があること、筏師に対する社会的評価が関係して、高収入であるにもかかわらず、雇用労働の場合みつかれば、その仕事について。雇用労働者は「社員」ではなく「ヒュトリ(給

与取り・日雇い」と自称し、会社も「社員」と「ひゅとり」を区別した。

木材輸送の当事者は、山林所有者、伐採者(山師)、伐採地から河原まで木材を牛で運ぶ馬喰、筏師の四者である。山林所有者が、自己の山林の伐採を山師に、輸送を馬喰と筏師に依頼するやり方であった。法的に言えば、請負ということになる。収入の大半は山林所有者が得た。業者では、馬喰、筏師、山師の順で所得をえていた。馬喰は希少性のため収入が多く、危険性のため筏師がこれにつづいた。筏師は個人であるが、これを統括する「親方」がいた。仕事の手配などは親方がした。

輸送先は八代と坂本であった。坂本は製紙工場用の木材であった。八代までくだったときには汽車で帰り、瀬戸



筏流し(球磨川、萩原町 昭和25年5月麦島勝氏撮影)

# 柳人があじわう漱石俳句

— ⑤ —

いわさき楊子



風ふけば糸瓜をなぐるふくべ哉

(漱石28歳)

一大事も糸瓜も糞もあらばこそ

(漱石36歳)

1句目にある「ふくべ」とは瓢箪のこと。風にふきやられた瓢箪が糸瓜をなぐったようにみえたという。とかくケンカの常套句は、この野郎！ヘチマ！ヒョウタン！オタンコナス！なぜかぶらさがるものばかり。

タコとイモとナスとヘチマは義兄弟 楊子

2句目には、およそ俳句にはふさわしくないたぐいの言葉がつかわれているが、漱石先生、よ



下がるだけ下げた頭が横を向く 楊子

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

石駅で下車した。汽車賃は筏師の負担である。坂本まで歩き同所で買い物をして帰ることもあった。長靴でなく草鞋をはいていた。八代と坂本は「焼酎を呑む」ところでもあった。禪姿で汽車の車中で呑んでいた。ある古老は「汚らしくてしかたなかった。あのような仕事はしたくないと思った」という。それは別にして、多くの話者は、筏師を語るとき焼酎を話題にする、筏師

＝焼酎のイメージは固定している。

筏はツタ（葛）で組んだ。ツタは筏師が用意した。ツタは具体的にはハゼカズラとカンネカズラであった。ハゼカズラが強度があり好まれた。カズラ準備作業だけで1日を要した。筏作製作業も1日を要した。増水した場合と渇水の時では組み方がちがった。固く縛りつける作業は簡単で

なく初心者と熟練者の作業時間は大きくちがった。

夏だけでなく冬も筏をくだした。寒中は身体が凍えた。辛い仕事であった。1人または2人で下った。小俣の瀬（佐瀬野）と大俣の瀬（合志野）が難所であった。難所で筏を崩して子どもは、「下手クソ」と筏師を嘲した。たてた。夏季には、子どもたちが筏まで泳ぎ、筏のうえで遊んだ。これを好まない筏師は棒で子供たちを追いやった。

八代（萩原）まで6時間ほど筏をながしていた。夏場は水に勢いがあり早くついた。冬は水が少なく時間を要した。段あたりで食事のため筏のうえで休憩した。難所で筏が解けるときのあつた。そのときには、筏を組み直さなければならなかった。カズラが緩ん

でいると感じたときも組み直した。

## ダム完成後

荒瀬ダム完成後も、ダム近くまで筏で木材を運んだ。そのあとは陸送であった。報酬は大幅に減った。瀬戸石ダム建設にともない沿岸道路（国道219号線）の整備が進み。筏の時代は終了した。筏師たちは新天地を求めて地元を離れた。多くは炭鉱労働者になった。そのほかの者はおおむね土木作業に従事した。

★以上は、一部を除き、関係者からの聞き取り調査をまとめたメモである。旧坂本村の「筏流し」全体については、『坂本村史』（平成2年12月25日）1014頁以下、1079頁以下参照。

# 65年ぶりの再会

黒羽幸司

終戦直後、つまり70年も昔の話だ。湯前町に暮らすごく平凡な家庭に、若い女性がいた。隣の多良木の新制中学で、美術を担当する教師だった。

詳しいいきさつは省くが、その彼女のもとに、近所の絵の好きな子が「お勉強」に来ていた。まだ少年とも呼べない、小学校に上がったばかりの坊やだ。

若い女教師は、美術教育について、ある考えを持っていた。国語や算数と同じ教え方、同じ学び方でいいのだから。うか。

2人は、写生と称して外に出かけることが多い。市房の山頂を仰ぎ、球磨川のほとりを歩き、声を上げて野原を駆け回った。坊やは絵を忘れたろうか。いや、いっそう熱心になった。

年月が流れた。雪国暮らしにすっかりなじんだ頃、あの「お絵描き坊や」の消息を耳にする。本職の画家への道を進んでいるらしい。年賀状のやり取りから、交流が始まる。彼女も教職を退いていて、久しぶりにキャンバスに向かう気になる。

さらに歳月が流れる。あの坊やは、いや、「坊や」どころではない。大学で教鞭を執り、中堅作家の地歩を固めつつある画家だ。文通も、個展の案内や作品の絵ハガキとなる。彼女もまた八十路近く、百号の大作に挑み、県展の常連だ。

が、順調な暮らしは続かない。彼女は認知症を発症する。在宅で5年、グループホームで6年の介護生活を経て、特別養護老人ホームに入所する。

この頃、思いがけない知らせが届く。あの坊やからだ。大阪教育大名譽教授、文部大臣賞などに輝く犬童徹画伯だ。画伯は言う。

「ひと目、先生にお目にかかって、画家への道を教えてく

日曜になると朝早くから、絵道具をかついでやって来る。彼女の方は時どきボヤク。たまの日曜なのに、朝寝もできない……。実は、天賦の才に恵まれていた坊やは、表現する楽しさと創造する喜びを、知らずに心に刻んでいたのだ。

数年後、彼女は職場の同僚と結婚する。男は満州引き揚げだったが、秋田に生家があり、2人で移住することになった。秋田とえば、遠い異境の地だ。気候風土が違ふ。言葉も風習も違ふ。

南国九州では、雪と言えは年に数回見るくらい。秋田の暮らしは、年の半分は雪の中。水道の凍結を防ぐため、毎晩「水切り」という作業が欠かせない。冬のストーブの薪は、夏のうちから切って割って用意しておくのだ。見るもの聞くもの、初めてのことばかり。

だが、めげてはいられない。彼女の「火の国乙女」の心意気に火が点いた。雪は彼女にとって、年に数回しか訪れない珍客だった。邪魔者や障害物ではない。面白がつて雪道を作り、遊びがてら雪下ろしをする。

ださったお礼を申しあげたい。

画伯は愛犬を伴い、ひとりナビを頼りに愛車を駆って、秋田に向かう。直接、秋田市郊外の老人ホームを訪ねようと、日本海沿道を北上する。

その当日、異変が生じる。ホームの彼女の容態が急変した。呼吸状態不安定で、市内の総合病院に救急車で搬送。画伯も、取って返し病院に直行。応急処置のあと、事情を汲んで、短時間の面会が許される。

もともと彼女は、事態が全く呑みこめていない。眼前の老紳士が、大学の先生とは知らない。二紀会を背負う画壇の重鎮とは知らない。ましてや、あの「お絵描き坊や」などとは！ 堪えきれずに付添いの夫が、声をかける。

「この人、トオルちゃんだよ。あのトオルちゃんだよ」。彼女に何の反応も表れない。

もとより奇蹟を信じるものはいない。65年ぶりの再会が天啓となって、彼女に一瞬の正気が戻るかも——とはならないのが現実だ。画伯が静かに彼女の手を取った。

でも——無表情だった彼女の顔に、生気が見える。心

なしに、笑みさえ浮かべているように見える。画伯の、旧師に対する敬愛の思いが、届いたのだと思いたい。

鶏頭（その名も床しい雁来紅だ）の種子をひと包み託して秋田を去った。

犬童画伯は、郷土熊本の市房山を描いた30号の作品をホームに寄贈した。さらに「ホームの庭に植えて」と、

【くろばね・こうじ／〒010-0024 秋田市  
 榎山南新町上丁23】



同郷の恩師と秋田で65年ぶり再会  
熊本の景色 懐かしんで

熊本県島原市の親で、大蔵省大蔵大学校校長の松  
敬二さん、一兵衛川内さん、にたに秋田を訪れ、大  
蔵の師匠で國元の元中政務局長黒澤孝一君さん、  
「四村山崎」が所する市飯島の特産物「黒毛犬」を  
飯島に、故郷の風を懐いた沖松春樹さん、黒沢さん  
は人懐っこい。たが、市飯島で結婚して年がら「再会、大蔵  
さんは「親友の目がある」は黒澤さんのおかげ、感謝  
の気持を伝えてくれた。と涙を浮かべた。

湯前で育った大蔵さん、んだと振返る。

は、小倉より年長、結婚日、その後、東京大で学問を  
曜日「黒澤さんの名も」通った。学び、卒業後は、政府大教  
育

犬童さん 感謝込め風景画贈る

[illegible]

2人は市内の病院で再会。黒野さんは高齢のため十分な会話ができないが、大重さんを見つめて「良かった」と笑顔を見せた。幸司さんは「大重さんに会ってこそうれしかったと思う。訪ねてくれた本当にありがとう」と妻の気持ちを代弁した。

（大原進太郎）

せ  
き  
れ  
い

鶴 鴿 短 歌 会

七月詠草

梅雨空に日ごとになる紫陽花は小雨に濡れて色鮮やかに  
陽が落ちて五月の闇に乱舞する堂の命明日をも知らず

守永 和久

あつてた、ああそあだつた、あれよあれ」みな歳のせい、それで落着  
あきドラの「とと姉ちゃん」のモデルとふ「暮らしの手帳」読み返しおり

河内 徹夫

三人の母に恵まれ今あるを早咲きの菊そつと供えぬ  
「星がぎゅつと集まつて天の川」と孫は眼に力を入れて

中村美喜子

妻倒れ食の段取り儘ならず心空しくストアに走る  
手料理に無頓着な我ありて傘寿を迎へ厨くりやに立てり

西  
武喜

リハビリに週に一度の墓参りいつも祈るは南無阿弥陀仏  
大木に囲まれおわす仏様夫の手を取り石段のぼる

釜田 操

「レディー・ガガ」裸ギリのコスチューム顔のメイクでさらにひと目を怪獣のアニメを見ていたことも等は襖の陰に隠れて覗く

緒方 保正

更新の結果知らされ歳ごとに衰えいきし能力見たり  
久方に仕事場行くと「待ってたよ」仲間の迎えに迷い消えたり

中原 康子

義母たちの代より続く講金を守り守つてはや半世紀  
雨続き花畑の中見てみれば雑草ばかりが唯に繁りて

三原 光代

山の端の月は優しく微笑みてそよ風来たりて散策誘ふ  
 大本営発表続けるかの国にいづれ来るか歴史の裁き

橋詰 了一

五月雨に硝子戸越しの人影の歪みを見つつ家路を急ぐ  
蝶の舞ふ湯山の里でこども等の遊びし姿今も頭ちくる

堀田 英雄

# 「明治熊本地震」と 長岡半太郎 ①

木崎康弘

## 1 はじめに

水島貫之著『熊本明治震災日記』の「〇八月八日晴 正午寒暖計九十度 旧七月十二日」の中に、次のような行があった。

「理科大学物理学講師理学士長岡半太郎氏は当地々震に就き研究の爲め一己人の資格にて今夕来熊ありし」

長岡半太郎という人物が「当地々震に就き研究の爲め一己人の資格」として来熊したという事実の記載だった。その辺りの事情について、1889（明治22）年2月に創刊されたばかりの『海西日報』（後の「九州自由新聞」、「九州新聞」、「熊本毎日新聞」。1906（明治39年廃刊）が報道した記事を、「〇八月九日晴 正午九十度 旧七月十三日」の中に転載していた。



長岡半太郎

だ。1937（昭和12）年に第一回文化勲章を受章してもいた。1865年8月19日（慶応元年6月28日）に、大村藩藩士の長岡治三郎の一人息子として肥前国大村城下の上久原（現、長崎県大村市久原2丁目）で生まれた。祖父は「大村藩第一の詩人」と謳われた長岡尚平。父は、明治政府に参画し、岩倉具視の欧米視察に随行した人物だった。

父の明治政府入りに伴って、一家も1874（明治7）年に上京。東京府東京市本郷区（現、東京都文京区）の第4中学区第一番小学湯島校（現、文京区立湯島小学校）に編入した。その後、共立学校から東京英語学校（後の東京大学予備門、旧制第一高等学校）へと進み、父の大坂転勤などに伴い、大阪英語学校（後に、大阪専門学校、旧制第三高等学校）に転校。さらに、東京大学予備門に再入学。そして、1882（明治15）年9月、東京大学理学部（後に、帝国大学理科大学、東京帝国大学理科大

「帝国理科大学生長岡半太郎氏は近々当地へ出張さるへき関谷博士に随行さるへき筈なりしも一刻もはやく現場を見たきものと先立て来熊され本日より日々西山に向け出張さる筈のごとし」云々

これを読む限り、関谷清景に随行して調査の助手を務めることが主な任務で、そのために事前に現場を見ておきたいとの思いのようだった。肩書きは、「理科大学物理学講師理学士」とも、「帝国理科大学生」ともあった。どちらが正しいのだろうか？と他の文献を当たってみると、1889（明治22）年10月25日発行の『地学雑誌』第1集第10巻「雑報」●長岡理学士と熊本地震の中に、「理科大学物理学講師長岡半太郎君」とあった。これからすれば、前者の記載が正しいようだ。

そこで、今回は、この長岡がどのような人物で、熊本でどのような調査を行ったのか、をテーマにしてみたい。

## 2 長岡半太郎と熊本地震

長岡半太郎は、土星型原子モデル提唱などの学問的業績を残した物理学者で、東京帝国大学教授、初代大阪帝国大学総長、第13代帝国学士院院長などを歴任した人物

| ミマス                                                                                                                                                 | 共表面 | の間に | 得きか | し稍々 | 、是れ | 皇今學 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ●長岡理学士と熊本地震 理科大学物理学講師 長岡半太郎君は當夏休校中故郷肥前大村に歸省せんとし失庭に熊本の大變を聞き取るものも取あらず東京を出發し先づ大分縣大分に着し同所の測候所に到り大震前數日の氣象模様又七月廿八日の地震々動方向等を當該の官吏に質し竹田を経て熊本に着せし爾來酷暑も厭はず金峰山 |     |     |     |     |     |     |

『地学雑誌』関係部分

学、現、東京大学理学部）の門を叩き、さらに1887（明治20）年からは、大学院に籍を置いた。修了後は、そのまま大学に残って、1890（明治23）年に助教就任。1893（明治26）年から3年間、ドイツに留学して、帰国後に教授に昇任したのだった。

鬼籍入りは、湯川秀樹が日本人初のノーベル賞（物理学賞）を受賞した年の翌年の1950（昭和25）年12月11日。実は、この湯川をスウェーデンのノーベル賞委員会に推薦したのは、長岡で、1939（昭和14）年のことだったという。

疊地方を巡檢されしは熊本地方人の普く新聞に據り知る所なり

時節柄氏の來熊あり以來持説を聞かんと皆々望しも學士は其實沈着濫りに發言せず朝出暮改の考説などを爲すものと宵壤の差あり、今左に氏か學士會月報拾九號に寄られしものを轉載す

### 熊本の地震

本年の洪水地震は頗る世人に注意を惹起せしが中にも今回の如き家潰れ地震くる程の強震は古來稀有にして復何時起るや知るべからざれば假令地震に搖られざるも其の痕迹を一見し裨益少からざるべしと思ひ予は八月二日東京を發し八日熊本に着し八日間地震地方を巡覽せり是より先き小藤博士は都合好く地質調査の爲め豊後へ出張中なり故地震の報を得て直に熊本に來られ予の熊本に着せし頃博士の地震取調は最早略緒に就き居たり關谷教授は當時箱根にて養病中なりしも病を勵めて熊本に來られ器械を鐵村に据付け觀測に取掛られたり其後理學士金田橋太郎氏も亦地震取調の爲め來熊せられたれば今回の地震は地震學者地質學者の調査を受く

雜報

四七五

るを以て學術上有益なる結果を得べし又學説の如きい諸先生の定論有ることあらん故予は敢て一己の意見を加へず見聞したる一斑を記して會員諸君の一覽に供するに過ぎず

予は初めて熊本市街に入り奇異の思を爲したるに恰も東京にて歳の市を見る如く路傍に疎造なる小屋掛け列を爲したるふして其故を問ひし地震以來市民の恐怖一方をらず鶏鳴風聲にも驚かざる有様にして夜戸内に眠るは危険なりとて斯く路傍に露宿する爲に設けたるを知りたり予の熊本に着せしハ地震後十日を経たりしに市民の狼狽如此地震の當時ハ金峯山破裂して盤梯山の二の舞を爲さんと浮説流行し荷物を他村に運搬し老幼を遠地に避けしむる杯非常の混雜を來せしを以て小藤教授ハ怖る、勿れ熊本の市民諸君と題せる長文を新聞紙に掲げ市民を慰諭せられたり

今回の大地震ハ七月二十八日午後十一時五十分起り熊本近傍は其害最も甚しく鬼將軍が精を凝して築きたる城壁も數ヶ所崩壊し市街に瓦を墜し壁を破られざる人民ハ

### 3 長岡半太郎と明治熊本地震

既述「●長岡理學士と熊本地震」に、次のようなことが書かれていた。

「理科大学物理学講師長岡半太郎君は当夏休校中故郷肥前大村に帰省せんとし失庭に熊本の大変を聞き取るもの取あえす東京を出発し」

これから見ると、もともと帰省の予定があつたのだろ  
うが、そんな中での明治熊本地震の勃発だつた。それにしても、その対応の速さ、機敏さには、驚かされた。そして、こう続いていた。

「先づ大分県大分に着し同所の測候所に到り大震前数日の氣象模様又七月廿八日の地震々動方向等を当該の官吏に質し竹田を経て熊本に着せし」

直接現地に赴くのではなかつた。「大震前数日の氣象模様又七月廿八日の地震々動方向等」について、大分の測候所で聞き取ることから始めたのだつた。可能な限り、関連する情報を集めて、現地に入る準備をしたところなど、流石に一流の科学者の顔だつた。

長岡が東京を發つたのは、「熊本の地震」(長岡1889a、b)によれば、明治熊本地震勃発の6日後の8月2日のことだつた。そして、神戸で船に乗り換え

て、大分の港で下船。前述のように、大分の測候所で事前の情報収集を行い、8日夕刻に熊本入りした。その時の思いは、「今回の如き家潰れ地震くる程の強震は古來稀有にして復何時起るや知るべからざれば假令地震に搖られざるも其痕迹を一見し裨益少からざるべし」(長岡1889a、b)というもの。要するに、例え地震を経験していなくとも、その被害の様子を知つていれば、今後の震災予防の取組みにおいて大いに役に立つのではないかと、との強い確信があつたのだらう。

そこで、斯くして始まつた長岡の調査の實際について、関係する記事を『熊本明治震災日記』(水島1889)から拾ひながら、明らかにしてみたい。

「○八月九日晴 正午九十度 旧七月十三日」に、次の記事があり、到着の翌日から調査に入つたことが分かつた。

「理學士長岡半太郎氏は昨夕來熊本日より西山地方取調として出張せり(後略)」  
それは前記したとおり、「近々当地へ出張さるへき関谷博士に随行」するためで、そのためにも「一刻もはやく現場を見たきもの」という、いわば事前の調査だつたのだらう。

次は、「○八月十一日晴 午後二時寒暖計九十度 旧七月十五日」の記事だ。転記しよう。

〔前略〕中島警部は長岡理学士を案内して山谿の間を跋涉し（後略）

これは、「九州日々新聞は本日西山の実況を観察せし報知紙掲げて曰く」とあり、『九州日日新聞』の記事からの引用だった。

なお、話題からやや横道に外れることになるが、その中に面白い内容の記事があったので、取り上げておく。

「岳村野出村地方は一体に頗る平穩にして人民は各々業に就き更に振動に頓着することのなきかことし本日は恰も旧暦七月十五日に当れるを以て夕方よりは盆踊を執行するとして舞台を掛けたる処もありて至て安堵し居れり（後略）」

文中にある岳村とは、『明治熊本地震』と関谷清景（木崎2016b）でも紹介した、最初に簡単地震計を設置した所。そこには、地震被害がほとんど無く、別に余震を怖がるわけでもなく、至って平穩な日常があったようだ。『明治熊本地震』と小藤文次郎（木崎2016a）で取り上げた、熊本市内の混乱状況とは明らかに違っていた。こういったことも、明治熊本地震のある一面を今

に伝える記録として、貴重だ。

なお、この日は、「理科大学教授関谷清景氏は本日午后一時頃長崎より当地に到着」とあった。来熊した関谷は、病軀をおして、熊本県庁との打ち合わせに、また翌日からの調査の準備にと忙しかったようだ。

8月12日は、関谷が金峰山塊中の岳村尋常小学校の一室を観測所と定め、簡単地震計の設置準備に取掛った日だった。「岳村尋常小学校を驗測所と定めらる（同校は旧寺院の跡なり）校内の一間（四坪）の床を廻して即日器械据へ付の準備に取掛られたり」が「○八月十二日曇 正午寒暖計九十度 旧七月十六日」の、その記事で、この中に長岡に関する記述もあった。

「頃日来滞熊日々西山を跋涉しありし長岡理学士も関谷教授に随行出張せられたり」

ここに、助手としての長岡の調査が始まった。待ちに待った、所期の目的、「関谷博士に随行さるへき苦なりし」が漸く実現したのだ。そこに張り切った長岡の姿があったはずだし、岳村が観測の場所に適していることを、8日から11日までの事前調査で確認し、岳村尋常小学校が最適地だと関谷に進言したことだってあったかもしれない。

そこでの具体的な調査内容は次のとおり。

12日～13日―既述の関谷式簡単地震計の設置。

14日―第五高等中学校から借用した器械追加。

15日―本格的な観測の開始と「熊本県知事富岡敬明殿」宛ての第1回目の報告。

16日―「八月十六日午前零時より午後十二時に至る」間の「第二報告」。

そして、「○八月十六日曇 正午寒暖計八十七度 旧七月二十日」には、次のような記載があった。

「長岡理学士は関谷教授か獄村に器械を据付らるゝに付助力し居られしか本日河内、面木、平山等を巡回され夜に入りて熊本へ帰宿されたり」

これは、17日、関谷の調査から離れて、河内、面木、平山などを通して熊本に帰ったとの記事だ。おそらく、「八月十六日午前零時より午後十二時に至る」中のある時刻までは観測に携わっただろうが、その後、熊本に向けて観測所を後にしたのだろう。そして翌日の「○八月十七日曇 正午寒暖計九十二度 旧七月二十一日」には、『海西日報』からの転載として、次のような記事があった。

「長岡理学士には今回の振動の多くは北方にある模様あるより実査の爲め本日当地出発柳川佐賀を経て

氏の故郷大村へ趣き格別の異状なければ夫より直ちに帰京の途に就かるゝよし云々」

8日に熊本入りし、9日から始まった調査だったが、17日の「今回の振動の多くは北方にある模様あるより実査」を以て終了した。その後、柳川、佐賀を通して、故郷の大村入り。

ここに、一連の明治熊本地震調査は終わりを迎えたのだった。

#### 【引用参考文献】

- 木崎康弘 2016a 『明治熊本地震』と小藤文次郎『くまがわ春秋』3、人吉中央出版社
- 木崎康弘 2016b 『明治熊本地震』と関谷清景『くまがわ春秋』4、人吉中央出版社
- 地学会事務所 1889 「雑報」●長岡理学士と熊本地震『地学雑誌』1—10、地学会
- 長岡半太郎 1889a 「熊本の地震」『學士會月報』19、學士会（一般社団法人學士会のHPからもダウンロード可能）
- 長岡半太郎 1889b 「熊本の地震」『地学雑誌』1—10、地学会（『學士會月報』からの転載）
- 水島貫之 1889 『熊本明治震災日記』活版社

# 経営指南書を贈呈

## —人吉出身の佐々木さん

人吉市出身の品質管理学者で神奈川県相模原市在住の佐々木脩さん（91）が故郷の温泉旅館のために書いた『人吉温泉旅館のための旅館経営の基礎知識』がこのほど完成し、市内の図書館や人吉温泉さくら会会員に贈られた。



著者の佐々木修さん

佐々木さんは大正14年人吉市生まれで、昭和26年に千葉工業大学工学部卒業後、航空機メーカーや自動車メーカーの品質管理部門で働いた後、昭和47年に玉川大学教授（品質管理）に就任。品質管理に関する指導を行い、多数の著作を著し、戦後復興の礎を支えた。退職後はたびたび故郷人吉を訪れ温泉旅館に滞在することが多くなり、平成12年には人吉旅館の堀尾芳人さんに頼まれ温泉旅館経営

の勉強会を開くなどして人吉温泉旅館の女将さんの集まりである「さくら会」など交流。今回発刊した同書は、その勉強会で集められたアンケートを参考に品質管理の面から旅館経営のノウハウをテキストにしたものをベースにしたもので、7つの章からなっており、第7章の「人吉温泉旅館関係者の経営哲学」にはさくら会会員の声も収録されている。



贈呈された本を手にするさくら会のメンバー（7月26日）

は皆さんのお蔭で、心の大事さと技の大事さの二者を学ぶことが出来ました。慎んで献本させていただきました」と記している。

7月26日には御用蔵「しらすぎ」で本の贈呈式があり、11人の会員と事務局に贈られほか、市内の図書館にも寄贈された。

佐々木さんをよく知る人吉旅館の堀尾里美さんは「佐々木先生にはいつも人吉のことを気に掛けていただき感謝しています。本は今後の

経営などの参考にさせていただきまます」と語っている。同書を読者プレゼント佐々木修さんのご好意に

より同書を先着5名の読者にプレゼントいたします。巻末に記載の編集部宛に葉書でご応募ください。

## 地元本①

佐々木脩著『人吉温泉旅館のための旅館経営の基礎知識』（人吉中央出版社 2016年6月）

## 研究者の本懐

### 白城松男

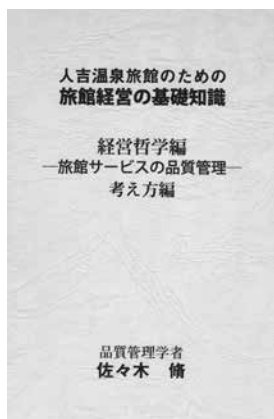
本書は経営学の入門書である。こ

うした入門書は多数あつて、どれを読んでも、同じ内容にみえるかもしれない。しかし、そうではない。『入門書』は誰でも書けるわけではない。

以前の東京大学の法学部では、一番ベテランの教授が『法学入門』を担当することになっていた。学問全体

を把握できなければ『入門書』は書けない。「入口」をまちがえれば「出口」を間違える、『入門書』は、初心者の「入門」の本であると同時に、ベテランの「再入門」の本である。『基礎知識』と書いてあるけれども、本書はそうしたベテランがまとめた質のたかい教科書である。本書を要約すれば、以上につきる。

それにしても本書のタイトルはユニークである。なにせ、「人吉温泉旅館のための旅館経営の基礎知識」である。確かに、人吉は温泉の街で



老舗の旅館も多いけれども、しかしそれでも、人吉温泉だけを対象にする経営の本があるとは誰でも考えないだろう。観光案内の本ならともかく、「旅館経営」の本である。存在するのが不思議なほどだ。しかも、筆者は元大学教授で品質管理の専門家。大学の教員が偉いとは思わないけれども、薄いパンフレットならともかく200頁近くもある本格的著作を執筆しているのである。驚くなどいわれても、驚かないわけにはいかないだろう。

大学教員が著作だというと、それだけで難しい言葉が並んでいるように思いかもしれない。しかし、本書はそうでない。高め目線で書かれているわけでもない。人吉の温泉旅館は、すでにすぐれた経営能力を有

していると評価したうえで、それを更に向上するために、これまでの経営の経験を「文書化」したらどうかと人吉の温泉旅館に提案しているにすぎない。「文書化」はISO（国際標準化機構）の大原則で、この提案は至極当然である。もちろん経験の「文書化」は簡単ではない。そこで筆者は、人吉温泉旅館のために、その作業をした。温泉旅館は複数ある。その複数の経験を要約して、筆者は本書をまとめた、温泉旅館の現実に学びながら、まとめる作業をしたといっている。筆者は、それゆえ、温泉旅館への感謝をくりかえし述べている。しかし、さすがにベテランの専門家である。経営の実際を単純に文字にしたのではない、それを体系づけ、温泉旅館経営のための「教

科書」に高めている。  
経営に王道があるわけではない。人吉の温泉旅館の経営で有用であれば、他の地域の温泉旅館でも有用である。更に他の事業領域でも有用である。鍋屋本館、人吉旅館、旅館芳野など馴染みのある旅館の経営者の生の声を収めた第7章のほか、さまざまな人生訓が随所に散りばめられている。  
筆者は人吉生まれ。卒寿を超えたである。本書はその寿記念として出版された。卒寿ともなると、さすがにちがう。本の題名にまじわされてはならない。本書は経営学全体の基本書である。そして、研究者は、なをなすべきかを示している。

【しろき、まつお／八代市】

## 本当にあった話

# 天井裏の生活者

3

久馬 凌

「宮崎県警ですけれども、〇〇さんでしょうか。」と男はいった。

「そうですね、なにか」とこたえた。

男は、静かに、言葉をくぎりながら、電話をつづけた。

男は宮崎県警の刑事であった。刑事によると、宮崎市内で手配中の車両を発見し、運転していた男を逮捕した。男を調べるなかで例の家に侵入した旨を供述（自白）したので、

八代署に照会したところ、該当する事実がある、被害者の電話番号は〇〇である、と回答があったという。それで、ボクのところに確認の電話を入れたと告げた。現地調査をしたいので



宮崎県警察本部

余裕のある日時を教えて欲しいといった。日時を伝えた。

約束の日時に、刑事は、ほかの3人の刑事と一緒に、あの家に来た。刑事たちは現場調査をはじめた。八代署の調査資料は入手していた。しかしあくまでも、資料の一つとしてあつかい、宮崎県警としては、自己の管轄事件として、同県警独自で捜査することであった。同じ捜査を二度するのは不効率と思うかもしれないけれども、そうではない。宮崎県警の管轄事件になったということは、宮崎地検が立件の有無を判断し（起訴猶予も含む）、もし立件されるならば裁判地は宮崎地裁ということになる。複数の都道府県にまたがる犯罪は少なくないが、管轄は一箇所になる。犯行地ごとに立件するわけではない。犯行地ごと立件していたら、それこそ複雑になる。立件するかどうかは裁

判に影響するので、管轄の警察が独自に調査することにもなる。そして細かい事実を把握していないと、検察も自信をもつて裁判にのぞめない。そこで宮崎県警は、八代警察署とは別に、独自に調査したのであった。

刑事たちは、ていねいに調べた。

ボクは、あの家での出来事は知っている。だが、知っているのはそれだけで、例の男がなにをしたのか、どういう人物なのか知らない。いったい、どういう事件だったのだろうか。捜査の休憩中に、刑事たちにたずねてみた。リーダー格の刑事が概要を教えてくださいました。その刑事によると、男は博多駅前の公園で生活する路上生活者であった。宮崎県の高校を卒業した後、福岡県内の企業に勤めた。しかし、不景気のため解雇になった。解雇後、派遣労働をくりかえしながら正規労働者になろうとしたけれども、結局、その道をあきらめ、最後には、路上生活者になった。5年ほど路上生活者として暮らしたようであった。路上生活者の暮らしは辛く、いつ死をむかえても不思議ではない過酷な世界

である。当初は死の危険など考えなかった。しかし、路上生活をつづけるうちに、一度母親の顔をみたいと男は思った。母に会いたいとの気持ちは次第につのつていった。気がつく



博多駅周辺

と、母親のもとに向かっていた。所持金はほとんどなかった。博多駅から、あの家まで、自転車を利用した。自転車は犯人自身のもので福岡県警に犯人自身の名前で登録していた。博多駅前をでて玉名で最後の食事をした。その後、八代に向かった。

八代に着いたころには疲労困憊していた。路上生活者の食事は粗末で栄養分は少ない。博多駅から八代まで自転車を利用した。栄養不足のなかで長距離の移動である。そのため体力を消耗していた。弱っている。それでも男は、あの

家のちかくまではきた。自転車を走らせた。しかし、犯人は動きを止めた。あの家あたりから急な坂になっていたからだ。

つかれた身体には、あの坂は厳しい。犯人は坂の前で長く休んだ。食事をとることなく座りつづけた。いくら座りつづけても体力は回復しない。むしろ弱っていくだけであった。長く、長く、その場に座りこんでいた。いつしか、夜になっ

ていた。現場は、人通りが少ない。少ないどころか、暗くなったら誰も歩かない。保育園・幼稚園の園児はもちろんのこと、小学生、中学生、高校性もない。そのためか、防犯カメラはもちろんのこと、街灯もない。犯人は、長く座りつづけるうちに、あの家が空家であると気づいた。男は立ち上がった。

(つづく)

【きゅうま・すぐる／八代市】



## 小山勝清生誕一二〇年特集④

(編集部)

### 小山勝清と郡築争議①

明治29年(1896年)、熊本県は行政単位としての八代郡を設置した。

八代郡は、基本資産を有しない

ことから、それを確保するため八

代海(不知火海)を干拓し「新

地」の造成を立案した。前後2回

120万円の郡債を起し、明治

33年(1900年)に潮止め工事

を開始し、明治37年(1904年)

に1063町歩(堤防延長223町)の開拓地を得た。「郡築」という新地(八代郡が築造した新しい土地)の成立である。

潮止めから田畑整地までの作業に

ついて、『八代郡史』(昭和2年)は、

「海水埋築の業たる日々海水と

戦ひ工事を進めざるへからざるを

以て到底陸上定礎の比にあらず、

況や風波の為め一朝にして労力と

資本とを空しく海水に委せざるへ

からざるの危険ありて、事業の容易ならざるは昔より実験せらるる所なり、本埋築亦風浪の爲めに一進一退、一時は殆ど成功を危うまれしかは甲論乙駁既に投する四十余萬円を抛つて中止せんと主張するもの甚多く、郡会銀員中にも議論沸騰し、遂に郡長不信任案の上議となり、郡会の解散と云う類稀なることとなり、郡長は休職となり、当事者は罷免せられ、紛擾愈其局に達したり。是に於いて嚮



八代郡長 古城彌二郎

きに埋築を計画し前郡長古城彌二郎を再ひ本部長に任じ、更に四十萬円を投して継続すべき方針を立てたりに、反対の議頗篤しきを顧みず、古城は身命を賭して之が衝に當り、民間にても亦之が後援をなせしかば、鋭意熱心、拮据経営、千艱万難を排して克く此の一大事業を完成したり。其後用水を補はん為め萩原より球磨川の水を引き溝渠を通し灌漑の便を開けり、時に明治四十年六月となり。今や蒼海は一変して美田となり、采穀種々年収実数十萬に上る。郡民は須らく古城氏に感謝せざるへからず。」

と説明している(316〜7頁)。この説明は、その後、各種文献に引き継がれ、現在でも有力であ

る。じつさい、郡築造成にさいして古城が果たした役割は大きい。しかしながら、八代郡史のように、彼の業績を過大視すぎるならば、郡築争議発生の原因はみえてこない。

明治37年(1904年)2月9日に最後の潮止めが終了した(そのため、2月9日は「潮止め記念日」とされている)。しかし、「潮止め」による新地造成は「農作地の完成」を意味しない。潮止めをしただけで耕地ができるわけではなく、その後も田畑化の作業が残る。潮止め時点では、郡築は牡蠣の殻で一面をおおわれた荒地であつた。灌漑施設もなく、夥しい井戸が掘られた。小山はそうした状況を知っていた。すなわち彼は、「堤防は成つたが堤防内の地面は荒浜蠣原であつた」とする。

「蠣」は「牡蠣」のことで、小山は、

塩止め時点の郡築の様子を正しく把握していたのであつた。

当時の郡築は小山の描く世界であつた。それにもかかわらず、八代



現在の潮止め堤防

郡は新地利用を急ぎ、入植者をすぐに入れた。入植者は、牡蠣の殻を拾い、耕地を整備し、灌漑用の井戸をつくるなど作業をすべて自前でおこなつた。郡築のような新地では、直ぐには生産物はできない。したがって、通常は、「鍬下年期」(新地整備が完了し生産可能になるまで年貢を徴収しない期間)を設定していた。しかし八代郡は入植初年度から「小作料」を徴収している。新地開発に要した費用を早期に回収したいとの八代郡の思惑は理解できないわけではないけれども、郡築を「美田」にするという全体的計画からみれば、入植料の早期徴収は目的にそぐわない愚策にはかならない。郡長の古城は

そうした愚策を推進した人物でもあつた。

現代の目からみれば、郡築については、「小作料」というよりは「入植料」という用語が状況を理解しやすい。「小作争議」という場合、寄生地主とそれに従属する細民の紛争をイメージしやすいけれども、郡築争議は、土地造成者としての行政機関と入植者間の対立にほかならない。郡築農民は細民ではなく新田開発のトップ・ランナーであつた。

八代郡は「潮止め」をした。しかし荒地を田畑にしたのは入植者であつた。したがって『八代郡史』を鵜呑みにし、古城郡長讃歌にとどまるなら、ミスリードになる。古城郡長によつてではなく、入植者の投

下労働によって田畑はできた。ここにポイントがある。小山の農地論との関係でも、このことは重要な意味をもつ。小山の所有権論によれば、荒地を開いた者にその土地の「所有権」は帰属するということになりそうだからである。少なくとも、「盗人論」でみた小山の所有の論理からはそうなる。けれども、小山は郡築争議を紹介するにあたり「盗人論」の論理を活かしていない。むしろ、あとで触れるように、彼の理解は細民論的小作争議論（寄生地主論）に近い。両者（投下労働による所有権の発生論・所有権の正統化論と小作争議論）を接合できずにいた点で、29歳の小山には限界があった。

田畑を造成しつつ「新地」の使用

料を支払うのは至難である。大正11年（1922年）時点の平均年収は二石六斗にとどまり、他方、小作料（入植者の土地使用料）は9斗2升であった。年収の6割近くが小作料として徴収されていたことになる。これでは入植者は耐え切れない。郡築争議の根源は、荒地を田畑に整備させつつ「小作料」を徴収した八代郡の財政政策にあった。

財政政策だけでなく、政治支配の構造も問題であった。郡築は、明治42年（1909年）4月に「村」になる。その時点では、村民は全員が入植者（小作人）である。それでは、自治体としての「村」は成り立たない。そのため、八代郡は入植者（小作人）のうち約20人に公民権をあたえ、その中から村長松島

信貞と12人の議員を選んだ。村長松島らはもとより「小作人」出身である。しかし、農民によりそうところが少なく強権的であった。八代郡は、松島らを媒介にして郡築農民を強圧的に統治しようとした。『八代郡史』も、小山も、こうした「政治的支配」の問題に言及していないので、これ以上立ち入らないけれども、そうした事情も郡築争議発生の要因であった点は確認しておくべきである。

★古城彌二郎。安政4年（1857年）、熊本・京町で藩士の子として生まれる。明治11年（1878年）、高知県巡查。その後、徳島県、山口県、兵庫県の警部を務める。明治28年（1895年）、帰熊。下益



郡築にある古城彌二郎の墓

城郡長、玉名郡長を歴任したのち、明治32年（1899年）、八代郡長に就任（43歳）。明治43年（1910年）、飽託郡長に転任。明治45年（1912年）1月死亡。享年56歳。「郡築新地の桶門のそばに埋葬して欲しい」との遺言を残したとされる。そのため、郡築6番地の堤防・桶門がみえる場所に古城の墓が建てられた。墓石には、「故郡長古城君墓 従二位子爵清浦圭吾題」の文字が刻まれている。

## くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

早苗田に山影うつす雨の中緑滴る里道をゆく  
白桃の色づく肌をふれるとき赤子扱う気持ちこそすれ

三原 竹二

若き母病めると聞きし稚児よママによりそえ心ゆくまで  
ちと疲れ大の字になり背を伸ばし力をぬいて幸せを吸う

坂本 ケイ

夫と建てし新婚の家半世紀子ら住まずして空き家となるか  
戦争への道阻みたくビラ配る空き家の多きに心いためつ

上田 迪子

農民の働き者の母の手は白く美し特養の手に  
校庭に蛙にバッタにカタツムリ学童舎まで道草多し

宮川しのぶ

球磨川へ赤鉄橋臨み水遊びカヌーと渡し水の手橋へ  
籠球の決め球反復黙々とチームプレイは伸びしろの余地

岐部 高明

球磨川を取り戻そうよこの次は瀬戸石ダムを取りはずそうよ  
甘い蜜たっぷり吸った甘利氏よ国益売ってまた不足なの

胸川きよし

醜態を天下に曝し逃げゆけり東京都知事は口を噤みて  
翁長知事の大勝利との第一声画像はかすむがねは曇る

上田 精一

# 不知火海の自然・生活

(2)

## アナジャコ

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる 詳子



アナジャコ。熊本ではシャクと呼ばれている

アナジャコって聞いたこともないという人もシャクと言えば、不知火海沿岸や球磨川流域に住む人で知らない人はいないと思う。干潟でシャク捕りの経験をした人も多いかと思う。シャクは地方名で、学名は「アナジャ

コ」という。十脚目であるエビの仲間である。

宮崎が故郷である私には、なじみのない生き物であったが、こちらに来て間もなく、近所の人が「シャク捕ってきたばい」とバケツ一杯のシャクを見せてくれた。エビのようでエビではなく、シャコのようなものでもないものが、うじゃうじゃいるのを見て、とても美味しそうとは思えなかった。しかも、その人は、「やつぱり、シャクはシャク味噌たい！」と、大きなすり鉢を取り出すと、生きたままジャリジャリつぶしてすり始めた。これには、もうびっくりしたというか、そのじやりじやりいう音に耐えかねてその場から逃げ出してしまった。茹でたり、天ぷらにしたものを、「うまかばい。食べてみなっせ」と言われても、食欲も失



筆を利用したシャク捕り

せるばかりであった。それ以来、シャクはずっと食わず嫌いのままで20年ぐらい過ごした。

ともかくも、私がこちらにきた昭和47年ごろには、河口干潟では1時間あればバケツ一杯のシャクが捕れるほどいた。その後、ダム建設の影響で、干潟への砂の供給が減少するの

に合わせて、人が入れる干潟も少なくなり、アナジャコも段々少なくなってきたようだ。

しかし、荒瀬ダムの撤去工事が始まり、少しずつ砂が干潟までとどくようになると、シャクも徐々に増え、今では歩けるようになった干潟では、休日には多くの家族連れがシャク捕りを楽しんでいる(表紙写真参照)。

シャク捕りの方法は、熊本の人には説明する必要もないが、ユニークである。習字に使う筆を使う方法と、洗濯バサミを使う二つの方法があるが、どちらもシャクの習性を利用したものである。シャクは、1〜2mのY字型の巣穴を掘り、その中で腹部にあるヒレのような腹肢を動かして、海水をかきまぜながら、プランクトンや有機物などを濾しとって食べているの

で、巣穴から出ることは脱皮時を除いて殆どない。シャク捕りは、巣穴の奥にいるシャクを、干潟表面近くまでおびき寄せることで捕獲する方法である。筆を巣穴に入れてしばらくすると、敵が侵入してきたと思い、シャクが上がってくる。筆が動くので、そこを上手に捕まえるのだが、これがなかなか難しい。洗濯バサミで捕獲する方法も、最初の数匹は筆で捕り、その尾を洗濯バサミで挟み、巣穴に入れ、四にして捕獲する方法である。私は、1時間トライしたものの、失敗ばかりであったが、その傍で、名人級の友人はヒヨヒヨいと干潮時の2時間ぐらいいで、バケツの半分ぐらいを釣り上げていた。

漁業者は、男性がしゃくこね棒という2〜3mもあるような棒を干潟に



シャクの胸を住み場所に行っているマゴコロガイ

れているものかどうかを調べるまでには至らなかった。

シャクは、私たちにとって食料であるが、干潟の生態系の重要な構成要素でもある。深く掘られた巣穴は、干潟の深い所まで酸素たつぷりの海水を供給し、干潟の浄化に大きな役割を果たしている。また、シャクとそ

の巣穴を利用する多くの生き物の存在は、干潟の多様性の保全に役かっている。シャク捕りをしていると、胸にハート形の2枚貝が付いていることがあるが、この貝はシャクなしでは生きられない。この「マゴコロガイ」の他にもシャクと共存している多くの生き物がある。また、巣穴はハゼやエビ、カニ、二枚貝などに生息場も与えている。要するに、シャクは、干潟の恵みの結実だけではなく、同時に干潟の恵みを支えている。シャクをただ闇雲に捕るのではなく、適正な捕獲量について



泥とのふれあいは、楽しさだけでなく、私たちの生活や干潟の生き物の重要性など様々なことを子供たちに教えてくれる

も考え、将来に亘って、その恵みを享受できるよう考えながら、干潟を楽しんでほしいものである。

今では、すっかり好きになったシャクのおかげで、干潟の恵みの結実だけではなく、同時に干潟の恵みを支えている。シャクをただ闇雲に捕るのではなく、適正な捕獲量について

【つる・しょうこ／八代市】



しゃくこね棒を利用したシャク漁 (写真：八代漁協提供)

差し込んで、シャクを追い出し、浮き上がってきたシャクを女性が捕るという方法で大量に捕っていた。夫婦で行うことも、男性数人が円陣を組むようにしてしゃくこね棒を差し込み行うこともあった。これは、はえ縄漁用の

餌として大量に捕っていたものだが、今ははえ縄漁をする人がいなくなり、この漁法も廃れてしまった。現在は食用として、筆を利用して捕獲している。シャクの漁獲量はここところ徐々に増えているにも関わらず、店頭価格はとても高い。一匹当たり、50〜80円ぐらいする。シャクはこれまで県外では食べる習慣がなく、あまり売れなかったそうであるが、現在は市外・県外で高値で取引されるために、市内の価格に影響しているのである。結果として、シャク好きの八代市民は干潟に集中し、現在、干潟の回復以上に人が押し寄せ、少々オーバークラス気味で、去年・今年は「少なかなあ」という

ばやきも聞こえた。それでも、夏の初め、干潟一面に抜けシャクの穴を見ると、干潟の生産性の大きさに感嘆せずにはいられない。

シャクは、天ぷらにしたり、ゆがいたりしてよく食べられている。しかし、県内の伝統的魚介類料理をまとめた「熊本 酒と肴の文化地理」(2012年、中村周作著)によると、よく食べられているシャク料理はツケジャクとシャク味噌となっている。シャク味噌は、私を食わず嫌いにしたり、すりつぶしたシャクに味噌と塩で味付けをした料理であるが、やはり今でも人気のようだ。しかし、ツケジャクというのは聞いたことがない。調べてみると、洗ったシャクの、えら、手足をとったものをそのまま醤油に漬けてんだものである。これが普通に食べら

# 産土の生活と精神有り様

## 「田島三間『明日の春』論」

永田 満徳

『明日の春』は明確な意思のもとで組まれた田島三間氏の第一句集である。「あとがき」に記されているように、これまでの句業をテーマごとに選り、春夏秋冬の順に纏めてあり、作者の「生活史」であり、「生活と精神の有り様」がくつきりと浮かび上がってくる。



第一章は作者が生まれてこの方離れることのなかった「ふるさと」である。「ふるさとや百年経たる梅白き」は山川草木が「ふるさと」に「百年」の時を経て残り続けることに疑う余地がないこ

とを詠んでいる。この強固な郷土意識は父の影響を抜きにしては考えられない。「打網の父思ひ出す梅雨出水」には「打網」する父の喜びそのものの顔があり、辛い労働の合間の愉悦ともいべき顔がある。その表情が子供ながらに良き思い出として鮮明に残ったと言わなければならない。その一方で、「しがらみをしがらみとして里の秋」とあるように、「しがらみ」のある「里」であればこそ、「ふるさと」は遠きにありて思ふもの」を実感する場面が幾度もあったであろう。

第二章の「まなびや」は教師として歩んだ道筋を辿ることができる。「春風に誘はるる」と初異動」という心躍る異動も、心の屈折はかなりあるものである。「重き荷を下ろさぬままに更衣」という心境になり、やがては、「職に慣れ人にも押れて年の暮」ということになる。職場に順応していくたくましさがおのずと滲み出ている。生徒に対しては、たとえ「なかなか届かぬ言葉野紺菊」であつても、「しなやかに生きよ」と願ふ弥生尽」という気持ちを抱くのである。一律に人を判断してしまう狭量さは微塵もない。その延長線上にあるのは、「補欠の子ただ眺め居る雲の峰」「ひつじ雲謹慎の子ら庭を掃く」の句にみられる生徒への限らない優しい

眼差しである。

第三章が「旅」で、読む者を旅に誘ってやまない句の数々である。「館山やおつとり暮るる春の海」「新涼や湯殿山にて靴を脱ぎ」は地名がよく活かされていて、「おつとり暮るる」「靴を脱ぎ」という措辞は土地の特色が過不足なく掴み取られている。「初鴨や人目を避けて薩摩入り」に至ってはその地名とともに作者状況がうまく取り込まれている。「人目を避けて」にはただ単に旅行を楽しむだけに終わっていない。

第四章は「くまもと」である。新旧の風俗が著しく入れ替わる熊本城の吟行句「花影やゲームにふける筵番」、或いは漱石が水前寺を詠んだ「湧くからに流るるからに春の水」を思い起こさせる句「小六月ゆるゆるあゆむ水前寺」がある。いずれも、句の背景を踏まえれば厚みのある句であることが理解できる。「夏草やしなやかに巻く牛の舌」などは阿蘇の近いところに住んでいる作者ならではの句で、面目躍如たる句が並んでいる。

第五章「夢」、第六章「山旅」、第七章「いのち」第八章「流転」と章を追うごとに章立てのユニークさがでてくる。それは「火渡りや寒のはどくる句ひして【夢】」「栗拾ひば

ろりと落とす喜びも【山旅】」「涼しきや氷河の端に触るる旅【山旅】」の句に現れていて、軽快なリズムに合わせて、内容も軽妙洒脱になってくる。「いのち」の章は、「子羊の蹴飛ばす空のあたかき」「翡翠や思ひ出幾つてんてん」「笑ひ声するりと蜻蛉すりぬける」のように、俳諧味とともに、余裕のある詠みぶりである。また、「流転」はその章の名前のごとく、「梅の枝向きを変へたる戦後かな」「節分や取り替へできぬ素の心」に人間の営みに対する鋭い批評性がみられる。

最後の第九章は、句集刊行の動機となった「母の死」で締めくくられていて、「見えぬ月ともに仰ぎし師も母も」「秋立つや母の額の熱きまま」などにみられる母への思いに心を揺さぶられる句が多い。「明日の春阿咩の像に手を合はす」という句はとりわけ含蓄のあるものである。この敬虔な気持ちにさせる句を掉尾に持ってきたことによって、句集を貫く作者の「生活史」「生活と精神の有り様」が如実に表現されている。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

## 方言を味わう⑤

# 英語にも球磨弁ごたつとのあるばい

前田一洋

### ○またとないバイト

「家庭教師のアルバイトをしませんか」、熊大教育学部二年生の折、同大教授の梅沢信一先生からのお誘い。「何年生にどぎゃん事教ゆればよかとですか」、「黒髪小学校の五年生で、近ごろハワイから日本に来て、まだ日本語が話せない女の子ですげない」。

「なんさま週に一回で、バイト代は二倍だすげなよ」。梅沢先生は人吉のご出身、ご苗字が違うけれども、かの犬童球溪先生のご長男にあられるお方。そのため人吉出身の学生には、殊

の外「ぼんのう」を懸けて頂き、多くの者が担任教授になつてもらつていた。そうしたご縁からバイトの話を下

さつ次第。昭和三十年代初期の家庭教師の「相場」は、週に二回程度で月給二千円。ちなみに、熊本城二の丸にあった医学部の死体監視、つまりホルマリン漬けにしてあるプールの遺体が浮いてくるのを、40ワットの裸電球の明かりを頼りに、竹竿で沈める作業。これが一晩に三百円だったので、今回のお話は願つてもない好条件。二つ返事で…のはずなのに。

「二晩考えさせて下さい」と、即答

しなかったのには、大きなワケがあった。なんのことはない、英会話の経験がなかったからだ。たしかに英語は中学高校と、曲がりなりにも教わつてはきた。しかし、実際にそれを使つて会話をした経験など全然なかったのだ。

ただ終戦直後、人吉の市内にもアメちゃん（占領軍の米兵）が来ていた。そして上級生が、「ジープば追い掛けてされて、ギブミーチョコレツてろんシガレツてろん言うてんの何か呉るつげなぞ」と教えた。そこでチャンスをとらえて、「ギブミーチュリンガミ」とやつてみたところ、案の定ガムが降つてきた。

まさに乞食然たる情けない行為ではあったが、ガムやチョコレートを貰う嬉しさと、外国語の「ような」言葉が相手に通じた喜びが先にたつてい

たようだ。小学校三年生の頃。

このように、英会話など全くといってよい中で、「ハワイ帰りの子供に日本語を」である。第一、日本語を教える側の自分が英語を話せないでは、それこそ「お話」にもならないではないか。しかし「週に一回、しかもバイト賃は四千元也」の魅力は捨てがたい。

そこで上通の長崎書店に行きカタカナのルビがふつてある英会話の本を何冊か買った。そしてその足で梅沢先生の研究室を訪ね、宜しくお取り次ぎ下

さいとお願ひした。「あんまり心配せんでもよかですばい、子供ちゅうもんな覚えが早やかですけん」とのご激励。

### ○気楽な家庭教師

決められた時間に訪れると、家族揃つて出迎えて頂いた。さすがはハワイで「旗あげて帰国されただけあって立派なお住まい、それに当時はまだ珍しかった自家用車まで。そして末娘で十二番目、その名もずばり「拾二子」ちゃんと私を囲んでの夕食会。座布団のように厚いビフテキそれにワインである。

私が買ってきたテキストを父親に渡すと、とても喜んですぐにその代金とバイト代を先渡し下さった。そして家庭教師のことなんか全く話題にも上らず、ただ遊びに来て下さる感覚で結

構ですとのこと。そして行く度に豪華な夕食をご馳走して頂き、家族の団欒。ただ時々本人がカタコトの日本語で、宿題に出された算数や理科の問題、あるいは漢字の読み方などを訊ねる。それにこたえてやるばかりであつて、「日本語を教える」といった肩の凝るような場面は、全くなかった。両親も焦らず急がず、じつくりと国語を習得させてやろう、そんな願いであつたのであろう。

かくてある晩、夕食をしながら家族揃つて阿蘇にドライブに出掛けようという話題が。阿蘇山には一回しか行つた経験はなかったけれども、社会科専攻のツアーだったので、地理の先生から詳しいお話を聞いていた。それで私が案内役ということで話ほとんど。



筆者 20歳のころ  
(昭和31年11月撮影)

## 〇ミシンに乗って

両親は元々熊本の人で、二十代にハワイに渡られたため、英語も日本語もばつちり。ただ家族だけの時には日本語交じりの英語、私には英語交じりの日本語で話しておられた。

「そうね、家のミシンは六人乗りだから、少し窮屈かもしれない。それにワラだとかサレツもうんと持って行くでしょう。どこからかミシンをもう一台借りてようかしら」。

えっ、ミシンに乗って。あんなもんに乗れば一人でも壊れてしまう、それに第一ミシンは乗るものじゃなく物を縫う機械じゃない。そしてワラまで持つて行く、草千里の馬にやるのだから。さらにサレツとは一体何物であろう。やがて意味が分かってきたのだが、最初にそれを聞いた時には???

であった。

ミシンはマシンの転訛で自動車、ワラはウオーターのこと。サレツはサラダであった。

ハワイの主要用語は英語だが、先ずは英語がアメリカで使われる過程でナマリが出る。さらにハワイ諸島でそれが拡大され、ミシンだとかサレツ等となつていったのであろう。ウオーターが方言化してワラという具合に。

私は幸い人吉高校生の時に、渋谷敦先生から方言への認識を与えて頂いていたので、それへの偏見は全くなかった。しかし外国語の中にも「球磨弁」よろしく、方言があることには、いささかびつくりした。結局ミシンをもう一台借りることができずバスで行った。

て来たしやんは出て来なかった。

## 〇一井が使った日本語は

ところで先般、五人の高校生たちによる米国視察の報告会が行なわれ、その真摯な発表に深く感動させられた。六泊八日という短かい日時乍らも、そ



人吉市の「一井正典『星雲の志』育成事業」報告会で帰国後の心境の変化を述べる高校生たち（2016.7.20）

## 〇どこから出てきたとね

高校生といえど新聞部のわれわれは、発行の度に熊本京町の稲本報徳社という出版社に向き、校正の作業をしていた。まだ活版印刷であったため時間がかかり、その「出張」は二泊三日。三日間も授業を「公式」にサボることができる魅力はまさに最高であった。

そして昼食はいつも新市街にあったオリンピッククというレストラン。そこでカレーやオムライスを食うのが何よりな楽しみ、大声で喋っていたら「お冷や」を持ってきたウエイトレスの美人が、「あんた達やどこから出て来たか」とね。来たとなでだけでよさそうなのに、「出て」がサービスしており、まるでけものが山から、という具合に聞こえた。

の成果と将来性たるや予想をはるかに上回るものがあつたと確信した。

一井正典いちのせい ますつねの渡米、明治十八（1885）年からすでに百三十年もの星霜だ。世相の差たるや天地の隔たりである。しかし高校生たちの意気込み、そして飽くなき探求心は、一井と少しも変わらぬシャープさに満ちていた。

殊に微笑ましかつたのは、発表の中に球磨弁を交えて会話をしたというくだり。というのも一井青年の頃には、まだ全国共通語が確立していなかった。従つて「じゅぐりつと」をはじめ、彼の「日本語」の大半は球磨弁であったのだ。そのために、もしかしたらその片鱗が彼の地にまだ残っているのでは、と。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

「はあ、おどん達が球磨弁で喋るもんじゃつて、田舎もんと思たんじゃない。よし人吉やら球磨郡のよかとこば存分教えてくれんばん」、さすがは新聞部員、はらかく、どころか、球磨川や人吉城など、故郷の観光案内を始めた、それこそ球磨弁まっ出しで。時間はまさに昼どき、レストランでは稼ぎタイムである。ところが自分が「出て来た」など失礼なモノ言いをしたばかりに、とんでもない返答の洗礼を受けることになったウエイトちゃん。目を白黒させながら聞いているのだが、フロア監督さんの目も光っている。おしろいや眉墨でかなり修正してあるその顔に、やがて雨雲がかり始めたのを見定めわれわれのまことに「親切な」観光案内は終わった。その次の出張で同じ店に行ったら、もう件の出

# 人吉藩の地震

## 一、宝永四（一七〇七）年の大地震②

尾方保之

### （三）修復願いの提出

十月四日の大地震で大きな被害を受けた人吉藩では後始末や修復が待っていた。しかし、お城の石垣や建物の修復改築は幕府の許可なしに勝手に行うことはできない。事前に破損所の修復願書を絵図を添えて提出し、幕府による審査と許可を必要とした。

藩は破損の石垣や櫓、堀の高さと長さを測定し絵図に記録して、翌年宝永五（一七〇八）年の閏正月十日付の修復許可願書を藩の内藤武助が持参し、幕府の老中井上河内守へ二月五日提出した。

『相良文書』によると願書は次のようになっていた。

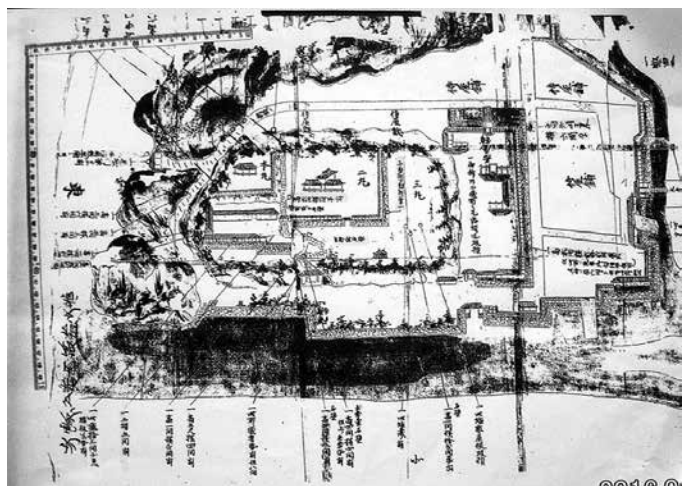
一筆啓上仕り候。私領分球麻城去年十月四日地震にて破損致し候に付、元の如く連々修復仕り度、絵図を以て伺い奉り候。願いの通り仰せ付下され候様、御差図頼み奉り候。恐惶謹言。

相良志摩守

閏正月十日

土屋相模守様  
秋元但馬守様  
大久保加賀守様  
井上河内守様

この普請願書に添えて提出された絵図の中に修復場所が



「地震ニ付城内破損之図」（県立図書館蔵）

具体的に記録されていたようで、『大日本古文書家わけ五ノ二』の中に「相良頼福球麻城普請願控絵図奥書」として次のように記されている。

これによると二ノ丸の北側の櫓台石垣と西側の石垣、東

側の土塀の三ヶ所と、それに御館（郭内居屋敷）の西側の石垣二ヶ所について「絵図朱印の通り元の如く連々修復仕り度、願ひ奉り候」と許可願ひをしている。そして本丸南の門、二ノ丸北側の門櫓、本丸東側の外曲輪門櫓、それに

#### 10011 相良頼福球麻城普請願控絵図奥書

○コノ奥書ハ普請願控繪圖ノ餘白ニ記セリ今繪圖ハ省略ニ從フ

肥後國球麻之城亥十月四日就地震崩并破損之覺

一二之丸北之方櫓臺石垣高四間横拾貳間崩申候

一二丸西之方石垣高壹間横三間張出申候

一二丸東之方土塀五間崩申候

一郭内居屋鋪西之方石垣高貳間横六間張出申候

一郭内居屋鋪西之方石垣高貳間横拾貳間張出申候

右之所々繪圖朱引之通、如元以連々修復仕度奉願候

一本丸南之方門壹ヶ所崩申候

一本丸ヨリ東之方外曲輪門櫓崩申候

一二丸北之方門櫓崩申候

一本丸ヨリ西之方追手多門東之方壹尺余傾申候

一本丸ヨリ西北之間外曲輪塀所々損申候

一本丸ヨリ西南之間外曲輪塀所々損申候

右之所々繪圖朱引之通、如元以連々修復仕度奉存候以上

寶永五戊午年閏正月十日 相良志摩守御書判

本丸より西側の追手多門と西北、西南にある外曲輪の塀二ヶ所について「…連々修復仕り度、存じ奉り候」となっている。幕府からは二月七日に許可されたようで、二月二十八日の飛脚便で井上河内守ら老中に対して「…願いの通り首尾能く仰せ出され有難く存じ奉り候。」とお礼の手紙を送っている。

#### (四)修復の取り組み

幕府の許可のもとに修復が行われるのだが、それがいつからどれだけの経費や時間をかけて修復されたのか、その記録を見ていないので残念ながら分からない。住居などの建築物の修復はすぐに開始されたに違いないが、石垣や櫓などの修復は遅れたのではないかと思う。それは藩の財政が天災続きで逼迫していたと考えられるからである。

地震が発生した三年前の宝永元（一七〇四）年の夏には、大雨洪水により関東地方の利根川、荒川が大はんらんし、その復旧の普請手伝いを藩は幕府から命じられた。藩の資金銀三百貫（約五千両）と大阪商人から拝借した銀三百貫（約五千両）、合わせて六百貫余を準備し、翌年の宝永二年（一七〇五）二月から二ヶ月間、復旧工事に当たった。

この宝永二年は、高橋政重の念願が叶って幸野溝の普請が再開（工事開始は元禄九年）された年でもある。これにも多くの資金を投入し、その年の十二月に幸野溝は完成した。この二つの普請工事で藩財政はさらに苦しくなっていた。

翌年の宝永三（一七〇六）年六月には台風により、多く

の武家や民家が被災した。生活に苦しむ武士や領民を救助するため、藩は低金利で貸し出した。その資金が四百貫（六千六百両）となり、不足の百貫余は大阪商人から借入れたという。

宝永四（一七〇七）年も大きな災害の年だった。六月の大雨洪水、七月の早ばつ虫入り、八〇九月の大雨・台風と続いた。そして十月四日、前代未聞の大地震が襲ったのである。

厳しい藩財政の中で大地震からの復興に取り組まなくてはならない状況にあった。藩主頼福をはじめ藩の重役たちの悩みと苦労はいかばかりであったのか、察しても余りあるものがある。さらに借金を重ねたに違いない。

【おがた・やすゆき／求麻郷土研究会、錦町】

### 被災地は3か月

村上ますえ

避難者4692人

軒先避難5300人

仮設住宅1492戸

熊本地震から3か月と

ニュースが伝えたこの数字

かつて聞いたことのない『軒先避難』

家はあつても部屋に入れず

わずか残った屋根の下で暮らす人々

避難所以上に過酷な日夜かもしれない

度重なる大雨も容赦ない

私の義姉も似たようなものだ

サッシ代わりのビニールで風をよけ

雨漏りの家に身を寄せている

「これでもいいほうよ

自分の家があるから

車で寝泊まりをする人もいる

小学校の体育館も

まだ避難所よ」

「災害からの早急な復興」は

選挙の集票の手段だったとばかりは思わないが

いつも 遅々として進まぬ復旧

被災地を離れている私は

（なんて理不尽な

3か月もたつというのに

早くしろよ

舌打ちしたくなる

めつきりマスコミの報道が減った最近

電話で確かめるしか手立てもないからだ

住まいの状況を聞く

「雨ばかりで仕事がかどらんとよ……」

避難者数にも入っていない義姉は

今日もそんな繰り返をいった

【むらかみ・ますえ／人吉市出身、千葉県浦安市】

# 郡築干拓の農業 ⑤

磯田 毅

今回は郡築で生産額の最も多いトマト栽培の最新状況に触れてみたいと思います。私は20年以上の長い間、トマト生産部会や理事などの役員を務めてきました。当時トマトの品種選びは美味しいけれど非常に作り難い桃太郎（初代）に代えて、作り易く収量の多い品種へ替わろうとしていた時でした。同時に、外国から侵入した温室コナジラミという厄介な害虫と、その媒介する黄化萎縮病というとても怖い病気が流行り出した頃でもありました。そこで多くの種苗会社は、黄化萎縮病への耐病性と安

定して量の取れる品種の開発へと向かいました。

現在、八代では以前の桃太郎みたいなメインになる品種は無く5〜6種類以上の品種が乱立している状態です。無論、収穫が延びて10月から6月までと長く、従って早期や晩期といった区切りがつかなくなったことも挙げられますので、どの時期にも合う品種というのは難しいのかも知れません。

以前私は、産地が生き残るためには消費者サイドに立った視点が大切で、そのためには美味しいコクのある



接ぎ木されたトマトの購入苗も届き始める (2016.7.29)

トマトが条件だと考えていました。しかし、品種開発は厳しい環境の続く生産者のために耐病性と量産性を優先する方向へ向かいました。味を重視した品種も一部出たのですが、実が

柔らかい欠点もあり代表する品種にはなりませんでした。ここ4〜5年、

値段の高い状況が続いたこともあってか、量より味を求める動きは残念ながら弱くなっているように感じます。

実は、こういった問題は過去にキュウリでも起きています。ある大手の量販店の方から聞いた話ですが、大変参考になると思いますので触れてみたいと思います。農協の合併が進み産地も大きくなってキュウリの選果は機械化が進みました。機械選果は従来のイボが鋭い黒イボ系品種では傷がつきますので、イボの少ない白イボ系へと変わらざるを得ません。一方、量販店ではより新鮮に見える

艶のあるものが選ばれるようになりました。白い粉（ブルーム）が付く従来の物より艶があつてブルームのないことからブルームレスと呼ばれています。このようなことから、キュウリはイボの少ないブルームレスの品種へと大きく変わりました。

ところが天は二物を与えずのごとく、それらの品種は美味しさを伴いませんでした。そのせいか、家計消費に占める購入野菜のトップに君臨してきたキュウリは、奇抜なネーミングと美味しさの伴う品種が登場したトマトにその座を奪われてしまいました。それから20年以上、トマトはトップの座を維持していますが、キュウリと同じ状況がトマトに起こらないとは限りません。

【いそだ・こわし／農業、八代市】



潮止め堤防から見た現在の郡築

# DMOやつしろ 荻田吉富

第2回夏季パラリンピックは1964年、東京オリンピックの後の11月8日から開催され、第1部は第13回国際ストーク・マンデビル車いす競技大会として、第2部は全身障害者を対象にした日本人選手だけの国内大会として行われ、競技会場の段差解消のスロープや手すりも設置されました。

第10回冬季オリンピックはフランスのグルノーブルで1968年に行われ、記録映画「白い恋人たち」とフランス・レイが作曲した同名のメイネンテーマ曲で話題となり、地元フラン

スのジャン・クロード・キリー選手は出場したアルペンスキーの3種目すべてで金メダルを獲得。次の4年後に札幌オリンピックの開催が決まっていた日本は、この大会に過去最高の62選手を送り込みましたが獲得メダルはありませんでした。

第19回夏季オリンピックは1968年、海拔2240メートルのメキシコの首都メキシコシティで開催され、三段跳で三人の選手が世界新記録、幅跳びでの記録もオリンピック記録を更新しました。当時アパルトヘイト政策をおこなっていた南アフ

リカの参加が認められませんでした。ドーピング検査採用後、違反者第1号は近代五種に出場したスウェーデンのハンス・グンナー・リリエンヴァル選手でした。

第11回冬季オリンピックは1972年に北海道の札幌で開催され、35か国・地域から1128人の選手と527人の役員が参加しました。市内の地下鉄網が整備され、真駒内地区のインフラ整備に貢献をし、カラーテレビからはトワエモアの「虹と雪のバード」が流れ、スキージャンプ70メートル級では、笠谷幸生選手、金野昭次選手、青地清二選手の日の丸飛行隊が表彰台を独占しました。

第20回夏季オリンピックは1972年、ミュンヘンで開催され、オリンピック史上最悪の悲劇と言われ

るミュンヘンオリンピック事件が発生しています。この大会から柔道が正式種目となり、レスリング・体操とともに日本のお家芸となり男子バレーボールが金メダルを獲得しました。アメリカ水泳競技のマーク・スピッツ選手は、出場した全種目において7個の金メダルを獲得しました。

DMO (Destination Management Marketing Organization) は観光関係者・産業界・市・市民などが一体となつて観光産業とその他の地場産業の活性化を促す組織です。

「DMOやつしろ」は観光物産資源のマーケティングや地域全般のプロモーションを行い、観光集客をはじめ、資源管理やサービスの品質管理、観光戦略の立案や事業計画のマネージメ

ント機能を有する運営組織への転換を図り、県南15市町村と連携した観光・物産振興とまちづくりを推進することとしています。

観光と東京オリンピック・パラリンピックを融合させる方法として、小学生や・中学生に選手や競技を身近で見ってもらう事前キャンプ地を、なじみがあったり競技施設が整っている地元を誘致する方法があります。

2002年FIFAワールドカップの時は熊本市のキャンプ地にベルギー代表チームが滞在しました。熊本県の場合はバトミントンの選手を輩出した球磨川のカヌー施設という特性を生かしての招致が可能です。

また聖火リレーのルートは2019年に発表されますが、熊本・大分の震災の被災地や観光名所、国

宝や文化遺産を巡るルートを自治体はIOCに提案して、被災地の高校生に聖火ランナーになつてもらい、インバウンド事業である訪日外国人旅行者誘致の一環として、観光客に沿道から見てもらい熊本に元気を与え、東京オリンピック・パラリンピックを被災地からも観光とセットとして盛り上げることを検討すべきでしょう。

震災後、銀座熊本館は熊本を応援しようとする人々で入場制限をするほどの盛況です。

八代版DMOの情報発信・プロモーション活動としてチラシや広報誌を銀座熊本館に置き、ホームページと連携して観光や物産販売のみならず、ホテル・マラソンのように観光客にも参加してもらう熊本城マラソン、阿蘇カルデラスーパーマラソン大会やひとよ

し春風マラソンといった、他の地域やスポーツ関係者も巻き込んだ観光戦略作りが期待されます。

熊本は台湾や中国に近いため、中国語の挨拶や道案内程度の簡単なおもてなし語学ボランティア講座を無

料で開催し、修了者にはDMO会員としてバッジをつけてもらう、商工会が5400円以上の民芸品やお土産の免税店の申請を指導する、自治体が民泊特区を申請といった、オリンピック・パラリンピックが開催される東

京だけでなく地域自らが来訪者を誘導するディスプレイション、マーケティング運営組織の推進が期待されます。

【かりた・よしとむ／税理士・行政書士、東京都】

## くまがわの神さん仏さん③

# 殿のお墓に行ってみた

宮原信晃

八代から球磨川に沿って上流に出発。219号線とは対岸の遙拝堰の下流の肥薩線とオレンジ鉄道の交差する地点に足を止めた。

「相良義陽の墓」。

古麓町のオレンジ鉄道と肥薩線

が交差する地点に、先ほどの木標が白く光って建っている。車は球磨川へ下りる場所の空き地に置き、肥薩線の線路を渡って、そこから急な斜面を上る。

誰も上っていないと思われる落ち

葉の深く積もった石の階段を、ひろった木の棒で足場を叩いて進む。「マムシがこわい」のだ。

しかも、森の中に入るときには、服装も気にかけないと、「クマバチ」がいる。

彼らは私たちのような外敵には、まず偵察飛行、情報収集、蜂の巣への危機感から、突如大攻撃に急変することがある。だから、白装束で、黒い服や帽子を被るのは避けるのだ。

昔の修験道の方々も白装束。いつ死んでもよいというスタイルというより、「蜂封じ」。

そんなかつこうで上っていく。

20メートルほどの高さの場所に墓の石碑があつて、その左右には、14面体の石灯籠が建つ。でも、長年の

地盤沈下のせいかな、今回の熊本地震の影響でか、石灯籠は地面に転がってしまっていた（写真参考）。

このお殿様は、相良藩の18代義陽公。相良藩は薩摩に降伏し、それから薩摩の先方となり、下益城の豊野の響ヶ原で、敵、大友宗麟の先方で

あつた甲斐宗運と戦い戦死。

その首がここに眠っているらしい。すこし説明を追加するが、この首塚の場所がすこしズレている。元はオレンジ鉄道の場所というから、数十メートル移動したことになる。

我が殿の悲運は、そもそも、薩摩

の策略であり、今の時代になつても首塚に線路を通すという薩摩（鹿児島本線）の手法には、カチンとくるのは私ばかりか。「鹿児島の人とは口利きたくない」と、つい思ってしまうのだ。

この14面体の石灯籠は人吉市内の願成寺の相良藩のお殿様の墓の横にも同じ灯籠が建てられているが、上に被さる笠の端つて、6ヶ所



義陽の墓（八代）に残る、唯一の「蕨手」の笠

の飾りである蔵手<sup>くらでて</sup>がそのまま残っているのは、ここだけらしい。霧の写真家の山口啓二さんの研究によれば、



相良神社（豊野）の祠の中の本尊らしき石碑

「昔から博打打ちが笠の蔵手を壊して、それを持ち帰り、勝負事の祈願にした」とのこと。

両方の蔵手の姿を確認して周りをよくよく見ると、元市長の永田正義さんが記念碑を建立されていた。

なぜ、ここに首塚があるのか？

歴史の専門家の意見をお尋ねねばならないが、私はここに立ち、球磨川や遙拝堰の風景を見渡せば「球磨川の対岸にある遙拝神社を死んでからも見守りたい」との殿の悲願ではなからうかと思う。

そういえば、豊野の響ヶ原にある殿の体を埋葬した場所にある相良神社の祠は、先日の熊本地震で崩れてしまっていた。崩れた祠の真ん中には石碑に梵字が見えた(写真参考)。

殿の没後150年目に建立した石

碑なのだろうか。

その義陽様の遺志を継いだ20代、長毎公<sup>ながつね</sup>は、たくさんの事業をされた。人吉城下を作り、お城を築き、今の国宝青井阿蘇神社までお造り頂いた。

さて、ここ義陽様の首塚は1581年よりここにあるのだが、ここで頭をひねった。

お殿様は、神様になられたのだから？ 仏さまになられたのか？

どなたか教えて頂ければありがたい。

未だに、神さん、仏さんの区別がつかない筆者。

これからご指導くださいませ。

【みやはら・のぶあき／人吉おおくま座の会事務局長】

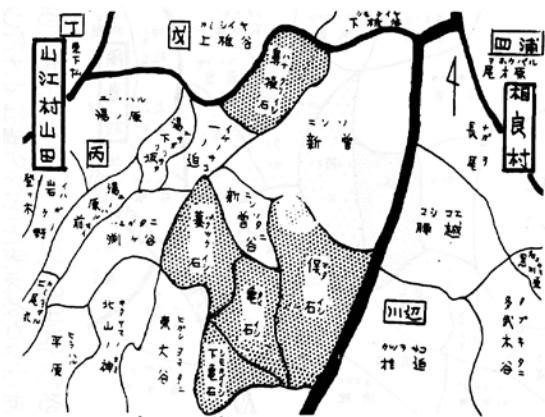
復刻  
掲載

## 字図で見る球磨の地名 ⑤ 上村重次

墓石（バクツウイシ）

—— 山江村山田丙 ——

境界線の別表現である構を原点とするカマ・カモ地名の変化形を示して



きたが同系地名と推定される蒲地名は球磨地区にはなく、菰地名は多良木町の一件だけである。人吉盆地には湿地は少なくないものの、内陸性気候は水辺植物のカマ・ガマ・コモなどの生育には適せず、地域の人々になりみ薄い名称であったから地名として蒲や菰が少ないのかもしれない。

地名には全国的に分布する全国区型と、関東と関西では異なったり、県や郡単位で見られる地方区型があって、方言の分布と共通する面も指摘できる。熊本県内にはワクド石という地名が各郡に点在する。山江村山田丙の小字墓石はバクツウイシと訓じてあるが、これは県内他部に見られる

ワクドイシのことであろう。『球磨郡誌』の方言の項には「蟾蜍ワクスズ」とあるが、バクツウとワクスズは同じモノの表現と考える。『日本方言辞典』（小学館）によると、ひきがえる（墓蛙）をワクド、イシワクド、カマバクド、タンノバクドなどと呼ぶのは九州に限られている。本州はヒキ系の名称である。

このワクドはガマ（蝦蟇）のことで、皮膚がイボ状になっているためイボガエルの別称もある。熊本県内のワクドイシ地名をあげると葦北郡津奈木町千代字蛙石（ワクドイシ）、天草郡苓北町都呂々字上・下ワクド石、宇土郡三角町中字蛙石（カハズイシ）、同郡不知火町大見字ワクド石、菊池郡西合志町御代志字蛙石（ワクドイシ）、同郡旭志村川辺字上・下蛙石（ワク

ドイシ、同町木野字蛙石（ワクドイシ）がある。

これらのワクドイシ地名を市町村字図で確かめると例外なく村（大字）の境界地にある。三角町の蛙石はカハズイシの訓があるが、他町村の蛙石はワクドイシと読まれているところから、三角町の場合は方言を敬遠してカハズと古風な訓がつけられたらしく、地元ではワクドイシと呼んでいる。阿蘇郡南小国町赤馬場の字脇戸（ワキド）は字狐石と並んで小国町と境合っていることから、蛙（ワクド）の宛て字とも考えられる。

標題の山江村山田の墓石から論が外れたが、字図で見ると相良村川辺との境界には字俣石（マタイシ）、字亀石（カメイシ）があるし、山田成との境界地名は鼻操石（ハナクリイシ）

になつていて墓石は境界地点から少し離れている。しかし深山の境界区域は広い面積の例が多く、鼻操石・俣石・亀石・墓石は境界標石に由来する地名と判断される。

和語のワクドは漢語の蝦蟇（カマ）だから構の宛て字になつたと推理し、構石↓蝦蟇↓蛙石の経過を想定するのである。

### 樫ノ木（カバノキ）

—— 深田村（現あさぎり町）——  
明治前期町村小字調査書には球磨郡の町村字名としては深田村字樫ノ木のほかに球磨村神瀬字樫、同村三ヶ浦字樫小屋（カバゴヤ）が出ている。また現行字名では多良木町榎木字カバノ木がある。

『大言海』によると「樫（樺）の古名はカニワザクラ。シラカンバともいう」とある。『牧野日本植物図鑑』にはヤマハンノキ、ヤシヤブシ、アズサ、ハシバミ、クマシデなど十四種のカバノキ科の樹木があげられてあるものの、カバノキは見えない。しかし『大言海』のいうシラカンバが出ており、次のように説明してある（要旨）。

『しらかんば（かばのき科） 中部や北部の深山に自生する落葉喬木で高さ二十以上に達する。樹皮は白色。』  
この説明によると、カバノキは九州には自生しないようであるが、樫（樺）の字を用いる地名は九州にも点在し、荒尾市には樫（樺）村があつて現在は大字名として残っている。また天草郡の町村小字では樫ノ木（カバノキ）二件、矢樫山（ヤカバヤマ）一件、樺

本（カバモト）一件がある。

不審に思つて、さらに『大言海』をみると「かば（蒲）。カマの音転」とし蒲焼（カバヤキ）の用例が示してあり、九州の樫地名は蒲地名の別表

記として検討する必要があることを知った。

『日本地名大辞典』43（熊本県）に「かわしま 川島（玉名市）」がばしま」ともいう。菊池川下流左岸の三角洲の頭付近に位置する。地名は蒲の生い茂る洲であつたことに由来すると思われる」とある。カバと蒲を結びつけるのは同意で

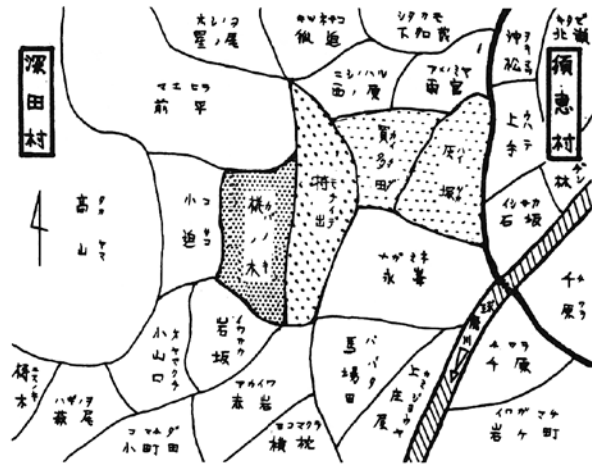
きるが、蒲の繁茂地がカバ地名になつたとする説は納得しかねる。すでに述べたようにカマは構のことと考えるからである。蒲生（ガマフ）はガマの生えている所の意ではなく、構（地域の区切り）のある所であり、加茂や鴨、釜の地名と同じとする例証は幾らでもある。

深田村樫ノ木の東側は字持出（モテイデ）である。この持は持木（モ

テギ、福岡県）、用木（モテギ、玉名郡菊水町）、茂木（モテギ、群馬県）、茂木（モトギ、茨城県）、元木（モトギ、山形県）以上『日本地名索引』の例から考えて基（もと）の宛て字と考えられる。即ち持出は基田のこと、区域の基準地（基標のある所）の表現であろう。樫ノ木は構の標木の意と解されるから、この二つの小字は古い時代のムラ境だつたのだらう。

深田村内山の廃寺・万福寺の山号は有智山と称されたが、これは内を有智（うち）と万葉書きしたもので、荒尾市樺の廃寺・賀庭寺（がていじ）も、樺を賀庭（かば）と標記したのである。先人の命名・用字の巧みに目を見はるばかりである。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】



ふく りゅう すい

# 伏流水

連載その⑤

湧き出した伏流水は、やがて清流球磨川となり八代平野を潤して不知火海へと注ぐ。我々もそれにあやかり世の伏流水とならんと願いつつ、このバトンをつないでいきたい。

## 土用の丑の日に 何がおきたか

上村雄一

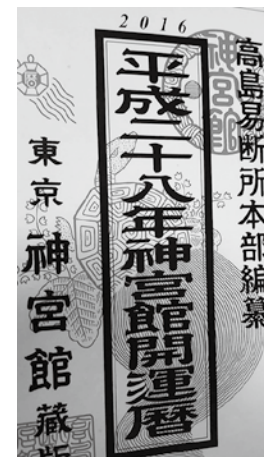
土用は、四立（立春、立夏、立秋、立冬）の前後約18日間をいう。土用の期間中には、「土の気」が強くなるので土木工事・建設工事はない約束になっている。工事関係者なら、誰でも知っている格言だ。「土用」と聞いてウナギを思い出す人はウナギ業界の販売戦略にあやつられている。「土用」は年に4回あるのであつて、夏の「土用」だけが「土用」ではない。

「土用」は仕事をしてはならないので田舎では「伊勢暦」は必需品である。「土用」にきざらず、日本人は旧暦を基準に生活し、日々の経験からそれぞれの日に意味を与えてきた。その経験は「伊勢暦」にまとめられている。新暦のカレンダーより伊勢暦を重視したい。

しかし、そうはいつでも新暦の威力は強力で、世のなかの時間を支配し、それにしたがわなければ生活できない。旧暦に戻れといつても、その提案を指示するものは

少ないに違いない。いまさら、なぜいまさら旧暦かと馬鹿にされる可能性すらある。

それでも、「土用」の意味などは大切にしたい。土用には「土木作業をしてはならない」は、その作業をする人にとっては休養日になるし、作業中の注意力を高める契機にもなる。「土の気が強くなる」といった説明は合理的精神に反するとの意見もあるだろうけど、それをまったく無視で



伊勢暦



液晶にヒビが入ったタブレット

きるほどに「合理的精神」の中身は詰められているわけではない。デカルト的精神だけが合理的精神ではない

じつさい、「土用」しかも「丑の日」に僕はタブレットを地面に落とした。携帯電話とパソコンの中間の機械をタブレットという。持ち運びに便利で重宝していた。そのタブレットが吸い込まれるようにして字面に落ち壊れてしまっ

た。ウナギをいただく気分になれないほどのショックであった。不注意で落としたのであろうとの非難は甘んじて受けよう。しかし、僕としては「土の気が僕の手からタブレットを地面に呼び寄せた」と信じている。

みなさんがウナギを楽しんでいるとき、僕はタブレットを壊す悲劇のなかにいたのだ。今年の「土用の丑の日」は7月30日であつた。つまり僕は7月30日にタブレットを壊してしまつた。

【うえむら・ゆういち

／編集部】

## 外来語から学ぶ英単語 (5) …… 藤原 宏

ボーナス・ボンジュール・ボンボン・ボニー・ボニト  
bonus bonjour bonbon Bonnie bonito

ラテン語で良いを意味する **bonus** (ボナス) が、そのままの形で英語に借用されました。日本では定期的に全社員に支払われる手当の意で使っていますが、本来は臨時手当 (賞与) のこと。

**bonus** (ボナス、良い) の **bon** (ボン) がフランス語に借用され、「**bonjour** (ボンジュール、こんにちは) や「**Bon voyage!** (ボン ボヤージ、楽しい旅を!)」など英語としても通用しています。

「**bonbon** (ボンボン、果物の砂糖漬け) は、もとは幼児語で **bon** (おいしい) の反復合成語です。

「**Bonnie (Bonny)** (ボニー、女性名) は、スコットランドの歌「**My Bonnie**」では「私のいとしい人・恋人」の意となります。

スペイン語から借用された「**bonito** (ボニト、サバ科の鯉) も **bonus** (ボナス、良い) の指小形で、形と色の美しさから「カツオ」を指すようになったと考えられています。

イタリア語の「**buon giorno** (ボン ジョルノ、こんにちは) の **buon** や、スペイン語の「**Buenos Aires** (ブエノス アイレス、美しい空・アルゼンチンの首都) の **buenos** も同系です。

(370)

# マイ・文庫本

## 遺跡発掘師は笑わない 悪事王の右手

桑原水菜著（角川文庫）

（2016年6月25日発行）



中心舞台は陸前高田と奥州平泉。前者は東北大地震の被災地、後者は世界遺産の地。2011（平成23）年6月25日に

シリーズ第4弾である。これまでとちがい「文庫書き下ろし」である。意図的か作者の準備不足かは分からないけれども、本書では物語は完結していない。次作は9月発行予定である。おそらく9月発行本で物語は完結するのであるが、そうだと断定できない。

後者は世界遺産に登録されているので、本書の発行日を考えると、その5周年を記念して本書は出版されたのであるうけど、東北大震災にもふれざるをえない現実も存在する。桑原は歴史だけでなく現実を直視する作家である。本書を読みながら熊本復興を考えずにはいられなかった。

登場人物は、遺跡発掘の天才・西原無量、彼のマネジャー永倉萌絵、無量の友人・相良忍の3人である。3人の関係は相変わず微妙である。女性の永倉が年長で、相良が彼女の1歳年下、西原が3歳年下で、3人とも20歳代である。恋愛の雰囲気を感じ込みつつも、3人はフラットな関係にある。フラットでありつつも、相互に、相手の「秘密」を知らず、その「秘密」さがしがシリーズのサブ・テーマになっている。

「悪事王」とは誰のことか。それが本書の核心である。桑原はこのシリーズで天皇制を視野に入れてきたことを考えれば、今回は蝦夷論になりそうなので、じつさい、阿弓流為（アテルイ）と坂上田村麻呂に触

れているけれども、どのような展開になるか、まだ、分からない。

本シリーズは歴史小説ではない。遺跡をめぐる事件と、その犯人探しの推理小説である。本作で桑原は、陸前高田でも平泉でも事件を設定した。しかし、両事件は序章にすぎないだろう。中心的事件は別に起きるにちがいない。

3人の「秘密」、特に無量の父の実像がどこまで明らかにするのか、歴史学的テーマとして何がとりあげられるのか、どのような事件が新たに起きるのか。その事件の犯人はすでに本書で登場しているはずで、その犯人はいつたいだれなのか。第5冊目の発行（9月）が楽しみだ。

【しらき・まつお／八代市】

## 流域情報

### 〈撤去する会の交渉〉

「瀬戸石ダムを撤去する会」（出水晃協同代表）は、

(1) 7月20日に、電源開発株式会社と交渉した。交渉項目の概要は以下のとおり。同社の回答について次号で紹介する。

- ① 瀬戸石ダム湖内堆積土砂の除去場所の選定理由
- ② 球磨川右岸（球磨村）の堆積土砂の除去作業を実施する計画の有無
- ③ 球磨川左岸支流（吉尾川、平谷川、内木場川）の堆積土砂工事の来年度以後の計画内容
- ④ 高田辺地区の土砂崩れについての認識と対処方法

⑤ 平均堆砂量を前回計画の17千 $\text{m}^3$ から23千 $\text{m}^3$ に引いた理由

⑥ 「平成27年度瀬戸石ダム定期検査結果に対する対応措置について（報告）」の添付文書「瀬戸石ダム定期検査結果に対する対応措置について（平成27年11月20日付）中の「平成27年11月以降に実施する予定の対応・対策」の「2、堆砂処理の計画」で、「昭和56年相当河床まで低下させるのに必要な堆砂処理量は平成26年度堆砂処理後から計算すると290千 $\text{m}^3$ である」とした理由。

(2) 8月4日、国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所と交渉した。交渉項目の概要は以下のとおり、同事務所の回答については次号で紹介

する。

① 瀬戸石ダム湖内の堆積土砂が充分に取れていない。このことについての見解を求める。

② 瀬戸石ダムに対する「A」判定がくりかえされていることについては国交省に監督責任があるのではないか。

③ 住民から開催要望の出ている堆砂除去工事の説明会を電源開発に開催させるべきである。

④ 住民の声を聞いて来年度の堆砂除去工事を電源開発に策定させるべきである。

⑤ 高田辺地区やダム下流などで昨年大きなけがれ崩れが発生している。がけ崩れ対策はどうするつもりか。

⑥ ダム下流で「深ぼれ」が発生している。どうするつもりか。

⑦ダム湖から除去した土砂は下流や海にどれだけ供給しているのか。

## 〈八代市坂本町の土砂災害〉

7月13日、八代市坂本町木々子地区で大雨により土砂災害が発生した(写真)。熊本地震との関係もあってマスコミは報道していない。近年、大雨の頻度が増加していて、今後も同様の災害が発生する恐れがある。さまざまな災害(地震を含む)に対応できる総合的な防災対策が必要に



なっている。避難生活も長引く傾向にあることから、備蓄食料の増加など防災対策策定の緊急性は高い。

## 〈八代市役所新庁舎問題〉

7月4日にバブコメは終了した。約500通の意見が寄せられた。その内容は未公表である。2010(平成22年)年の八代市の人口は132,266人であった(国勢調査人口)。2060年(平成72年)には人口は半減すると予想されている(国立社会保障・人口問題研究所推計)。こうした人口縮小社会のなかで市庁舎はどうあるべきか。市庁舎建設問題は、建設費用・建設後の維持管理費用などの財政問題に直結するだけでなく、住民サービスに関係する重要問題である。

## 〈県民の会・20周年記念講演会〉

川辺川ダム建設に反対してきた市民団体「子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会」(中島康代表)は30日、創立20周年記念講演会を熊本市の県民交流館パレアで開き、ダム中止に至るまでの運動を振り返ってダムのない社会の実現を訴えた(写真)。



中島熙八郎(きよはちろう)県立大名誉教授の講演では「川辺川運動の成果を他の地域でも学んでもらいたい」と語り、木本雅己さんや、つる祥子さんから4人が登壇してのパネル討論ではダム反対運動が広がり、知事や流域首長が建設中止表明に至った経緯を振り返り今後の課題について語り合った。

## 話題を追って

### 八代河川国道事務所より感謝状

球磨川ツクシイバラの会

球磨川河川敷に自生するツクシイバラを保護することを目的に結成され、今年10年目を迎えた「球磨川ツクシイバラの会」(桑原史佳会長)に、河川の環境保存や河川愛護意識の啓発に取り組んだ団体として国土

交通省九州地方整備局八代河川国道事務所より感謝状が贈られた。

授与式は7月26日に八代河

川国道事務所であり、出席し

た桑原会長は「この表彰は、呼びかけに賛同して、除草作業に参加してくださった皆さんと共にいただいたものです。ありがとうございました」とお礼の言葉を述べた。

## 読者の声

※この欄への投稿を募集しています。巻末の編集部宛にお送りください。

### 『くまがわ春秋』を手にして

内容が難しく理解できない時があります。特に長い文章だと読み疲れて飛ばしてしまします。あとフリガナをもう少し増やして欲しいと思います。

(60代女性)

「昭和の写真館」がレトロで良いですね。解説がていねいだともっと良いのですが。(60代男性)

巻頭の詩をいつも楽しみにしています。特に7月号の「お母さんのふとん」は好きな詩です。

(40代女性)

## 情報ピックアップ

### 肥薩線の魅力を描こう

21日にスケッチ大会

人吉鉄道観光案内人会は観光列車「いさぶろう」で行く矢岳駅周辺でのスケッチ大会を8月21日(日)に開催する。

当日午前9時にMOZOKAステーションに集合し、矢岳第一トンネルや駅舎などを見学したあとスケッチを行う。

参加料は無料で定員は20名(小学4年以上)。弁当・飲み物・帽子・クレヨンか絵の具を持参のこと。画用紙と画板は主催者側で用意する。

事前の申込が必要で、申し込み用紙は人吉商工会議所にある。お問合せは鉄道案内人会 ☎0966・22・1826 まで。

### 29日、放送作家

内村さんの講演会

人吉市出身の放送作家、内村宏幸さんが「笑い」について語る講演会が8月29日(月)18時から人吉市上薩摩瀬町にあるイタリアンレストラン BUONO BUONO併設のイベントホール PRIMAVERAで開催される。

内村さんは主にバラエティ番組の構成を担当し、お笑いコンビ・ウッチャンナンチャンのウッチャンこと内村光良は実の従弟にあたる。

今回は講演会のお懇親会(会費4000円)も予定されている。お問合せは BUONO BUONOの春口さん ☎0966・24・4522 まで。

## インフォメーション

- ▽夏季特別展覧会「行ってみよう江戸時代〜八代の町と村〜」（八代市立博物館未来の森ミュージアム）9月4日
- 8月11日（木）山の日の
- ▽2016年「シムリット未来博」（あさぎり町須恵文化ホール）
- 8月12日（金）
- ▽人吉市九日町夫婦えびす神社奉納「ひとよし盆踊り」（東九日町通り）
- 8月14日（日）
- ▽球磨郡錦町「軽トラ市」（道の駅にしき）
- 8月15日（月）
- ▽第62回人吉花火大会（中川原公園周辺）
- 8月17日（水）
- ▽多良木町「えびす夏祭り」（多良木町多目的グラウンド）
- 8月18日（木）
- ▽求麻郡土研8月例会「錦町木上地区文化財調査」（同地区周辺）
- 8月20日（土）
- ▽第5回湯前ぶどう祭り（湯前駅レールウイング帯）
- 8月21日（日）
- ▽人吉よさこい祭り（中川原公園・青井阿蘇神社・JR人吉駅前）
- ▽矢岳駅スケッチ大会（JR人吉駅前MOZOKASTATION）
- ▽スポーツ推進委員会「ベタンク大会」（人吉スポーツパレス）
- ▽おどろがプラモコンテスト（28日、あさぎり町免田ボッポ館）
- ▽「マウンテンバイクレース3時間耐久」（五木村瑞海野キャンプ場）
- 8月26日（金）
- ▽第32回錦夏まつり（錦町役場前広場）
- ▽第4回「球磨焼酎を楽しむ会」（人吉市・あゆの里）
- ▽第10回球磨川音楽祭・木野雅之（人吉市カルチャーパレス）
- ▽このころの健康相談（人吉保健所／予約制）
- 8月27日（土）
- ▽第25回「日本の大鮎釣り選手権大会」（球磨村内の球磨川流域）
- ▽第10回球磨川音楽祭・木野雅之（多良木町交流館石倉）

※天候などの影響により中止・延期になる場合があります。

# たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司  
人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの  
**アイウェア**  
(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所いずみ  
(居宅介護支援事業所)

いずみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック  
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

本誌の取扱店舗 ■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店（錦店・免田店・多良木駅店）  
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

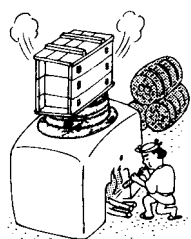
## 編集後記

ふだんはデスクワークばかりであるが最近、取材に出る機会が多くなった。出かけてみればこの流域の奥深さと多様性には驚くばかりだ。郡楽の広大な埋め立て地に立つと、山育ちの人間には目まいがするほど広大で驚くばかりであった。★今年20年を迎えた「源流水リレー」の皆さんに密着した。球磨川の源流を海に届ける行為は水への感謝、地域への感謝が根本にあること知った。今回参加した子どもたちの歓声が物語るように、このリレーも長く続いていくに違いない。★坂本の森下仁二郎さんの流域に暮らす姿勢も取材した。息子さんともども几帳面で物腰が柔らかく、山里に暮らす人の奥ゆかしさを感じた。★時間を取られたといえば「昭和の写真館」の人物解明だ。写真の背景を探るために八代人吉の古老を訪ねたり、ネットを使って仲間に関わけたが、明解な答えは得られなかった。一枚の写真といえども裏付けされなければその価値は半減する。資料は裏付けされ体系化されなければ、認知されることはないだろう。読者からの情報提供にも期待したい。(ま)

〒868-0086  
熊本県人吉市下原田町瓜生田675-3  
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部  
info@hiyoshi.co.jp  
☎・FAX 0969-2247901

【購読者の皆様へ】講読料を未納の方のみ偶数月に「郵便振替用紙」をお送りしています。封筒の中を確認の上、「ご送金ください」。

匠の枝



御膳醤油  
(だし入り万能しょうゆ)

・玉子かけご飯  
・豆腐  
・お刺身に

300ml 650円 (税抜)



◆みそ煎餅  
477円 (税抜)



◆納豆みそ  
477円 (税抜)

◆納豆みそ  
(お徳用)  
300円 (税抜)



九州和食 蔵めくら  
人吉散策コース  
みそ・しょうゆ蔵



釜田醸造所  
会長 釜田 元  
社長 釜田 嘉頭

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16  
電話 (0966) 22-3164  
FAX (0966) 22-3165  
メール info@marukama.co.jp